

平成27年度

セント・ピーターズバーグ市派遣  
高校生親善研修生報告書

平成27年度 7月20日(月)～7月31日(金) 12日間



公益  
法人

Takamatsu International Association

高松市国際交流協会

# 目 次

1. 日程表 .....	1
2. セント・ピーターズバーグ市派遣 高校生親善研修生滞在日程表 .....	2
3. フォトギャラリー .....	3
4. 親善研修生 報告書 I	
香川県立高松桜井高等学校2年 苛原 奈央	
日誌・活動記録 .....	5
感想文「宝物の10日間」 .....	16
5. 親善研修生 報告書 II	
香川県立高松西高等学校2年 橘 知隆	
日誌・活動記録 .....	17
感想文「雨時々晴れの10日間」 .....	29
6. 親善研修生 報告書 III	
高松市立高松第一高等学校2年 松本 萌花	
日誌・活動記録 .....	30
感想文「Though the sun didn't shine there, our smile shone through」...	42



# 日 程 表

## 高松空港 — タンパ空港

日 付		便 名	発着時刻
7/20(月)	出発	高松空港	GK416 19:00
	到着	成田空港【ホテル日航成田で前泊】	20:25
7/21(火)	出発	成田空港	JL10 11:10
	到着	シカゴ空港	9:05
	出発	シカゴ空港	JL7692 13:21
	到着	タンパ空港【現地お出迎え】	17:02

7/21(火)から7/30(木) セント・ピーターズバーグ市でホームステイ

## タンパ空港 — 高松空港

日 付		便 名	発着時刻
7/30(木)	出発	タンパ空港【現地お見送り】	JL7439 7:05
	到着	シカゴ空港	8:58
	出発	シカゴ空港	JL9 12:45
7/31(金)	到着	成田空港	15:35
		成田空港 — 羽田空港【リムジンバスで移動】	
	出発	羽田空港	JL487 20:00
	到着	高松空港	21:15

## 平成27年度セント・ピーターズバーグ市親善派遣研修生 滞在日程表

平成27年7月20日(月)～7月31日(金)

日 時	場 所	研 修 内 容
7月20日(月)	高松空港～成田空港	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高松空港：出発式</li> <li>・成田空港近くのホテルにて前泊</li> </ul>
7月21日(火)	タンパ空港	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セント・ピーターズバーグ市役所職員、</li> <li>・ホストファミリーのみなさんによる出迎え</li> </ul>
7月22日(水)	各ホストファミリーと行動	
7月23日(木)	セント・ピーターズバーグ市役所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市長表敬</li> <li>・観光CM撮影</li> </ul>
	セント・ピーターズバーグ市議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市議会表敬</li> <li>・香川県・高松市についてのプレゼンテーション発表</li> </ul>
7月24日(金)	<p>●セント・ピーターズバーグ市役所職員による市内案内●</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セント・ピーターズバーグ歴史博物館見学</li> <li>・モリアンアーツセンター見学</li> </ul>	
7月25日(土)	アル・ラング・スタジアム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホストファミリーと一緒に地元チーム、</li> <li>・タンパベイ・ローディーズサッカー観戦</li> </ul>
7月26日(日)	各ホストファミリーと行動	
7月27日(月)	セント・ピーターズバーグ商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県・高松市についてのプレゼンテーション発表</li> </ul>
	サンケンガーデنز	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流委員会主催の歓迎会</li> <li>・サンケンガーデン見学</li> </ul>
7月28日(火)	Northeast Exchange Club ボランティア市民団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県・高松市についてのプレゼンテーション発表</li> </ul>
7月29日(水)	各ホストファミリーと行動	
7月30日(木)	タンパ空港	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セント・ピーターズバーグ市役所職員、</li> <li>・ホストファミリーのみなさんによる見送り</li> </ul>
7月31日(金)	高松空港	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修生家族・協会職員による出迎え</li> </ul>





st.petersburg  
www.stpete.org

# St.Petersburg Photo Gallery 2015



セント・ピーターズバーグに到着



市長表敬



市議会訪問



セント・ピーターズバーグ歴史博物館見学



商工会議所訪問



商工会議所にてプレゼンテーション





国際交流委員会主催の歓迎パーティ



サンケンガーデンズ見学



セント・ピーターズバーグ市長と



タンパベイ・ローディーズ試合観戦



タンパベイ・レイズ野球観戦



ダリ美術館見学



アートの街セント・ピーターズバーグ



笑顔でお別れ

# 親善研修生 報告書 I





## 日誌・活動記録

香川県立高松桜井高等学校 2年 苛原 奈央

### 7月20日(月)

今日は、いよいよ高松を飛び立つ日です。朝起きた時から、明日から始まる初めての海外生活に心を躍らせていました。高松空港で家族に見送られ、前泊のため成田空港へと出発しました。飛行機の中では、隣に座っていた同じく研修生の松本さんとアメリカに行ってから話や、私達の共通した将来の夢であるキャビンアテンダントなどについて語り合いました。

ホテルに着いてからは、私と松本さん、橘君と一緒に明日からのアメリカでの生活について話したりしました。みんな興奮してなかなか眠れなかったので、3人でウノやトランプをして楽しく過ごしました。結局それぞれのベッドに入ったのは深夜2時をまわっていました。明日から3人だけだという不安と、異国の地に行きたくさんのことが経験できるのだという期待を胸に眠りにつきました。



高松空港出発

### 7月21日(火)

朝の目覚めはすごく悪く、朝食のバイキングは少ししか食べることができませんでした。成田空港につくと、チェックインまで時間があつたので、ホストファミリーに最終日に渡すお礼の手紙用のカードと富士山のステッカーを買いました。そしていよいよアメリカ行きの飛行機に乗り、長い空の旅が始まりました。映画を観たり、研修生3人でカードゲームをしてフライト時間を楽しみました。しかし思った以上に、時間が進むのは遅く経由地点であるシカゴ空港につく頃には疲れ切っていました。入国審査はとても緊張しました。ここにきて初めて英語を使い、外国に来たのだという実感がわきました。乗り換えのターミナルに入ってから周りは、自分とは違った人種の人ばかりで、飛び交う言葉は英語。分からないことがこんなに自分を不安にさせるのだと思い知りました。無事に乗り換えができ、フロリダのタンパ空港に到着しました。空港にはホストマザーのシルビアが迎えに来てく



念願の本場のハンバーガー

れていて、そのまま夕食を食べにダウンタウンに連れて行ってくれました。そこで、セント・ピーターズバーグバーガーを食べました。私はアメリカに行ったら、絶対に本場のハンバーガーを食べたいと思っていたので、早速夢を叶えることができとても嬉しかったです。しかし想像していた以上に、ハンバーガーは大きくて半分しか食べることができませんでした。シルビアと、ハンバーガーを食べながら色々な話をしまし

た。シルビアはダウントウンにある保険代理店を営んでいるとのこと。私がミュージカルが好きだと言うと、ミュージカルに連れて行ってあげると言ってくれたので、とても嬉しかったです。他にもお互いの家族を紹介したりして、ゆったりとした時間を過ごしました。シルビアの家はとても大きくてびっくりしました。用意してくれた部屋にはフカフカのベッドが2つあり、その上には私のために買ってくれたハローキティの便箋や手紙が置いてあり、シルビアの優しい心遣いを感じ嬉しかったです。また、4人の娘の写真や、17歳と18歳のニューヨークに住んでいる孫の写真が飾ってあり、離れていても家族を思う心が見えてあたたかい気持ちになりました。私がお土産にハローキティの箱に入ったお菓子を渡すと、とても喜んでくれました。今日はとても疲れていたのですが、いつもとは違うベッドだということも気にせず23時頃に就寝しました。

## 7月22日(水)

今日は朝6時に目が覚め、昨日自分の家族に連絡していなかったのですぐに連絡しました。8時頃にリビングに行くとするでシルビアは起きていて、「おはよう、よく眠れた?」と元気よく聞いてくれました。英語の挨拶に少し戸惑いつつも、元気よく挨拶を返すことができました。シルビアが朝食を作っている間、昨晩は閉まっていたカーテンが開いていたので、窓の外を見ると、芝生が見えその向こうには大きな湖がありとてもきれいでした。私とその景色に驚いていると、シルビアはテラスで朝食を食べようと言ってくれました。朝食はスクランブルエッグとパンでした。パンにはシルビアが作ったピーチのジャムをかけて食べました。ピーチのジャムは、程よい甘さでとても美味しかったです。湖には、魚がたくさんいるらしく跳ねているのを見ました。天気もよくとても気持ちのよい朝でした。



テラスからの眺め

その後シルビアの友人のチャーリーの家に行きました。今日はチャーリーの誕生日らしく、シルビアはフロリダで有名なフラミンゴの形のペンをプレゼントしていました。チャーリーは美容師の仕事をしていてとても忙しそうでしたが、私達と話している時はずっと笑顔で接してくれていました。チャーリーのお兄さんは「ハンガーゲーム」という映画の映画監督をしていてとても有名だと聞いたので、日本に帰ったら観てみたいと思いました。少し話した後チャーリーとは別れて、橘君のホストファミリーとプールに行く約束をしていたので地元のプールへと向かいました。



スカイラー、インディゴ、ノエルとプール

プールに行くと、まだ橘君達も到着しておらず、誰も泳いでない貸し切り状態でした。私は小さい頃からスイミングスクールに通っていて泳ぐのは大好きだったので、急いで着替えてすぐに泳ぎ始めました。シルビアは私が泳ぐのを見て凄く褒めてくれました。泳いでいると、プールの監視員の子が来たので一緒にお話をしました。彼女は17歳の高校生で、とてもしっかりしていたので、年齢を聞いたときは驚きました。その

後も写真や動画を撮ったりして楽しんでいると、橘君と橘君のホストファミリーが到着しました。橘君のホストブラザーのスカイラー、ホストシスターのインディゴとノエルはみんな元気でたくさん話しかけてくれて本当に可愛かったです。途中から幼稚園児くらいの小さい子達がサマーキャンプの一環でプールに入ってきました。ノエルはその子達に積極的に話しかけていました。自分からコミュニケーションをとろうとするなんてすごいいいと思いました。プールサイドで昼食のピザを食べている時、リスを見かけて驚きました。日本では野生のリスを見たことがないのでノエルと一緒に餌をあげに行き、間近でリスと触れ合うことができました。みんなで4時間位遊んだ後、私はシルビアと先にプールを出てダウンタウンにあるイタリアンの店に行きました。そこにはもうシルビアの友達のリンダとシェリー、シェリーのご主人が待っていて、最初にシルビアが私のことを簡単に紹介してくれました。みんな私が初めてアメリカに来たことを知ると「楽しんでね」などと声を掛けてくれて暖かく迎えてくれました。ピザやパスタを食べながら、何故アメリカに来たいと思ったか、将来の夢や私の家族の事等、色々な話をたくさん質問もしてくれました。みんな私に質問する時はゆっくり話してくれましたが、自分が言った単語の発音が違って伝わらない時がありました。一瞬戸惑いましたが、辞書を見せてなんとか伝えることができました。ネイティブ英語にはまだ全然至っていないことを改めて思い知りました。



餌をもってリスを探すノエル

家に帰るとシルビアが映画を観ようと言ってくれたので、「HIGH SCHOOL MUSICAL」を選びました。その映画はコメディで多少英語がわからなくても楽しめるものですが、途中で眠くなり明日観ることにしました。明日はいよいよセント・ピーターズバーグ市議会で高松市についてのプレゼンテーションをする日です。練習の成果が発揮できるといいなと思いながら眠りにつきました。

## 7月23日(木)

この日は朝からドキドキしていました。リビングに行くと今日のプレゼンテーションをとても楽しみにしている様子のシルビアが朝食を作っていました。その隣でアメリカの朝のニュース番組がかかっていたので、私はそれを観ていました。ニューヨークから生放送されているもので、日本のニュース番組とは違いとても賑やかなものでした。アナウンサーが目を見開いたり、大笑いしたり喜怒哀楽の表現がとても豊かでした。また、話すスピードがとても早く何を言っているのか全く聞き取れませんでした。見ていると元気が出ました。私がそんな事を考えているうちに、スクランブルエッグとチーズをはさんだボリュームたっぷりのサンドイッチが出来上がりました。家で時々母が作ってくれるサンドイッチより少し甘かったけど、おいしくて私はこのサンドイッチが大好きになりました。朝食を終え、昨日途中になっていた映画「HIGH SCHOOL MUSICAL」を観ながら昼頃までのんびりとした時間を過ごし、おなががすいてきたのでMFA（ミュージアムオブファインアーツ）美術館に行き昼食をとりました。私が選んだのはハンバーグとトマトとキャベツをはさんでいるハンバーガー。ここのハンバーガーも大きくて全部食べ切ることができませんでしたが、この後のプレゼンテーションの緊張も理由の一つの様な気がしました。セント・ピーターズバーグ市役所に集合する





ミュージアムオブアーツにて

時間は13時。しかし市役所についた時間は13時15分。遅刻してしまっただけでビクビクしていましたが、そんな風に思っていたのは私一人でシルビアも私達を待ってくれていたセント・ピーターズバーグ市役所職員のインディアも全く気にしていない様子でした。日本では5分前に集合するのが当たり前なので、これには少し驚きました。後から、松本さんと橘君達も来てセント・ピーターズバーグTシャツに着替え、まずは観光CM撮影。カフェの前や建物に描かれたアートの前など市内の色々な場所で、セント・ピーターズバーグのアート、食べ物、天気が好きだという内容の短い英文を3人で分担して言うという簡単なものですが、噛んだり、間違った文を言ってしまってNGを何回か出してしまいました。それでもみんな終始笑顔で対応してくれてとても楽しい撮影となりました。次は市長表敬です。市長さんはとても優しい方でその場の雰囲気緊張することなく話すことができました。セント・ピーターズバーグに来てどんなことを体験しましたか、またどう感じましたかなどを質問されました。最後にお揃いのバッチをつけて記念撮影をして、いよいよプレゼンテーション。高松市の良さをしっかり伝えられるように気を引き締め直し臨みました。私は女木島と男木島を紹介しました。事前研修で実際に女木島の鬼ヶ島大洞窟を見学し、観光協会の方から桃太郎伝説について色々お話しを伺うことができました。その甲斐あってみなさんとても興味を持ってくれました。また2016年に開催される瀬戸内国際芸術祭にも触れ、精一杯高松市をアピールすることができました。詰まった所もあったけれど落ち着いて話すことができ、プレゼンテーションを終えるとシルビアも隣に座っていた女性も褒めてくれて一安心しました。

また明日ね、とみんなに挨拶をして市役所を出て、シルビアの友人のケレンに会うためダウンタウンへと向かいました。ケレンはバイオリニストで私が高校で吹奏楽部に所属していて、トロンボーンを練習していると言うと、音楽の話がたくさんしてくれました。またケレンは他にも最近観た映画で日本でも上映されている「インサイドヘッド」というディズニー映画を勧めてくれたので、この後その映画を観に行くことにしました。映画の内容は家族や親友との絆についての話で、日本にいる家族や友達のことを思い出して急に寂しくなりました。映画が終わったのは20時半頃でしたが外に出るとまだ明るく、アメリカ滞在3日目日没が日本よりも大分遅いことに気づきました。家に着いたのは22時頃でしたが、朝から緊張していたせいさごく疲れていたもので、すぐにベッドに入りあっという間に深い眠りにつきました。



市長表敬にて

## 7月24日(金)

今日は、セント・ピーターズバーグ市役所職員のインディア、デイビッドが私達研修生を市内観光へ案内してくれる日で朝からワクワクしていました。いつものようにシルビアと英語で挨拶をかわ

し、シルビアが作ってくれるお気に入りのサンドイッチと今日は特別に作ってくれたピーチパイを食べてすぐに市役所に向かいました。研修生のみなどと合流して、デイビットの車に乗り、セント・ピーターズバーグ歴史博物館や陶芸体験ができる所、日本風のもの売っている雑貨屋など色々な所を回り説明してくれました。セント・ピーターズバーグ市には色々な建物にユニークな絵が描かれていました。歴史博物館では地元野球チーム、タンパベイ・レイズの歴代選手のサイン入りボールが展示してあり興味深かったです。またモレアンアーツセンターでは多くの陶芸作品



レイズTシャツを着て野球観戦

を見たり、地元の子供達が陶芸体験を楽しんでいるのを見学しました。お昼はファストフード店に行き、私はあまりお腹が空いていなかったのですがインディアが勧めてくれたチリソースがかかったポテトを食べました。市役所に戻るとシルビアはもう迎えに来てくれていて、みんなと別れて一旦家に帰り、「アナと雪の女王」のDVDを観ました。シルビアは私が「アナと雪の女王」を観たいと言っていたのを覚えていてくれて日本でも観られるようにとそのDVDをプレゼントしてくれました。夕食に



日本食を食べるシルビア

日本料理のSOUZOUという店に連れて行ってくれ、そこには2日前に会ったリンダやシェリーもいて、4人で日本料理を楽しみました。私はメニューに讃岐うどんと書いてあるのを見つけたので、急に地元の食べ物が食べたくなったのでそれを注文しました。シルビアはミートボールが乗ったどんぶりをリンダは天ぷらそばをそれぞれ注文しました。15分位で頼んでいたものが全て揃いましたが、私が頼んだ讃岐うどんは日本で食べるものとは到底似ても似つかないもので衝撃を受けました。スープは茶色く、肉団子の乗ったカレーうどんに似ていましたが、醤油や出汁の味は一切なくとても不思議な味だった為、1口食べて残してしまい、シルビアは申し訳なさそうに私に謝ってくれましたが、外国で日本料理が食べられるとは思ってもいなかったし、いい体験になったから気にしないでと答えました。またそこで日本が大好きで日本語が話せる人とも出会えることができました。その人のお姉さんは日本に1年留学していたそうです。楽しい時間が過ぎました。夕食を終えるとシルビアの車にリンダとシェリーも一緒に乗り、待ちに待ったタンパベイ・レイズの野球観戦に行きました。席は2列目を用意してくれていたのので、人生で初めて野球ボールをもらうことができ、とてもいい思い出になりました。私達が応援していたタンパベイ・レイズは試合に勝ち、会場は大盛り上がりで私も地元の人と同じ位興奮しました。



衝撃を受けた讃岐うどん

7月25日(土)

今日は朝からシルビアからCDとミッキーマウスのノートのプレゼントを貰いました。私が男性バンドやディズニーが大好きだと言っていったのを覚えていてくれて嬉しかったです。早速プレゼントしてもらったCDの曲を聴きながらシルビアが作ってくれたサンドイッチを食べ、ケレンと少し離れた大型ショッピングモールに行きました。アメリカに来て初めての買い物だったので緊張しましたが、シルビアにお金の使い方を教えてもらいながら、友達のお土産にグミを買いました。昼食はショッピングモールの中にあるイタリアンで鶏肉と野菜の大きなピザを頼み3人で食べました。途中で味に飽きてしまいました。2切れでお腹いっぱいになるほどのビッグサイズでした。

昼食が終わった後、シルビアの行きつけの店に入りました。そこには昨日行われたタンパベイ・レイズの試合の写真が一面に載っている新聞が置いてあり、偶然私が写っている写真をシルビアが見つめました。ケレンがそのことを店員さんに言ってくれたので私はその新聞を貰うことができました。本当に小さくしか写っていなかったのに、ケレンが店員さんに知らせてくれたり、店員さんがラッピングまでして新聞をくれた優しさがとても嬉しかったです。他にもお店をまわりましたが特に欲しいものがなかったので、最初買ったグミとプレスレット、貰った新聞だけもって家に帰りました。

夜に、松本さんと松本さんのホストシスターで昨年度親善研修生として高松へ来ていたマヤと妹のミカ、橘君と橘君のホストファミリーと一緒に地元のサッカーチームタンパベイ・ローディーズの試合観戦に行くために、仮眠を取り少し休みました。起きるとシルビアが私のためにタンパベイ・ローディーズのTシャツを用意してくれていたののでそれを着てスタジアムへと向かいました。20分前でスタジアムに着き、ホットドッグとコーラを買って中に入るともうすでに松本さ



サッカースタジアム



タンパベイ・ローディーズの選手と私達

んや橘君達は来ていたので、私も急いで席に着き、ホットドッグを食べました。応援にはみんな熱が入っていて、様々な掛け声やちょっとしたダンスを踊ったり、会場に一体感が生まれていました。もちろん私達3人もそれに混ざり一緒に盛り上がりましたが、掛け声がいまいち聞き取れず、乗り切れない場面もあり予習して来ればよかったと少し後悔しました。試合が終わった後マヤが選手のサインを貰えると教えてくれたので、みんなでサインを書いてもらいに行きました。中には頼むと一緒に写真を撮ってくれる選手もいて、たくさんの思い出を作ることができました。

帰りに、近くのスーパーに寄ってアメリカで有名なグミやクッキーを買いました。シルビアはソースにつけて食べるポテトチップスが大好きでそれを買っていました。店員さんは、日本人の私に興味津々で何日間の滞在なのか、日本のスーパーもこんな感じなのかとたくさん質問してくれました。日本に行っ

てみたいと言ってくれてとてもフレンドリーな人でした。

## 7月26日(日)

昨日は相当疲れていたのか目が覚めたのは10時前でした。シルビアは毎朝6時に起きてウォーキングに行くので、すでに朝食を作ってくれていました。リビングはすごくいい匂いがして何を作っているのだろうと思っていると、出てきたのはシルビアの手作りピザでした。トマトとチーズがたっぷり乗っていてとっても美味しかったです。朝食を済ませ、ディズニー映画の「ポカホンタス」を勧められたので観ました。この映画は、ディズニー映画で初めて実在する人物を描いたことで有名ですが、私は全く知りませんでした。ハッピーエンドではなかったのですが、少し悲しい気持ちになりましたが、人の優しさを描いたあたたかい物語でした。その後ずっと楽しみにしていたミュージカルを見に行きました。題名は「MAME」でブロードウェイ作品の一つだそうです。地



ミュージカルMAME



地元の小さなミュージカル劇場

元の小さな劇場に私達が着いた頃には、たくさん人がいて会場の外は大賑わいでした。会場が小さかったおかげですごく近い所で観ることができ、小さな会場ならではの良さを感じました。物語は、小さな男の子が両親を亡くすところから始まりますが、最後にはこの物語の主人公であるMAMEという人に出会い、元気を取り戻すというものでした。MAMEは、マシューという男性が女装して演じていました。前にマシューの誕生日パーティーにシルビアと行き、面識があったので、女装して舞台に現れた時には大笑いしました。ミュージカル終了後、マシューの所に行き、サインが欲しいと言うと快く書いてくれました。英語は少ししか理解できませんでしたが、歌は鳥肌が立つほど上手くて笑いあり感動ありのとても素敵な物語でした。

夕食は台湾料理を食べに行きました。そこにはユニークな時計や大きなライトがありいい雰囲気のお店でした。私は鶏肉のラーメンを、シルビアは豚肉のラーメンを頼みました。見かけは日本で食べるものと全く同じだったのですが、味は食べたことがない不思議な味がしました。私はスープが口に合わず最後まで食べ切ることができませんでしたが、シルビアは美味しいといいながら食べていました。



台湾料理のラーメンを食べる私

家に帰って「HIGH SCHOOL MUSICAL 2」の映画を見ながらシルビアが朝作ってくれていたブラウニーを食べました。ブラウニーはアイスと一緒に食べるのが美味しいと言われ、私もそれを試してみると、ブラウニーの苦さとアイスの甘さがマッチしていてとても美味しかったです。映画を観てい



る途中に知らない内に寝てしまい、シルビアに起こされ映画は明日観ることにして21時前に就寝しました。

## 7月27日(月)



商工会議所でのプレゼンテーション

目は覚めたのは8時過ぎで、リビングにいくとシルビアがサンドイッチを作ってくれていました。いつものように挨拶をすると、あと少しで掃除婦さんが来るから！と言われ掃除婦さんがいることを知らなかった私は大驚き。8時半ぴったりに掃除婦さんが来て家の掃除を始めていました。午前中は2回目のプレゼンテーションを予定していたので、ゆっくりしている暇はなくシルビアとダウンタウンに向かいました。今日のプレゼンテーションはセント・ピーターズバーグ市の商工会議所での発表でした。商工会議所の専務理事、研修生のホストファミリーと国際交流委員の方々、インディア、デイビットという少人数の前だったので緊張せずに行うことができました。プレゼンテーションが終わると女木島には何人の人が住んでいるの？と聞かれましたが、答えることができず、基本的なところを勉強していなかったことを後悔しました。

その後は、近くにシルビアの会社があったので松本さんと橘君と橘君のホストマザーのジュールズも一緒に行きました。6名程のスタッフがそれぞれ自分の個室でイヤホンマイクを付けて忙しそうにパソコンに向かっていました。私は何回か来たことがあったので職場の人も覚えてくれていて、みなさん笑顔で声をかけてくれました。

松本さんや橘君達と別れてシルビアの会社の近くのイタリアンの店に入りました。そこでミートスパゲッティを食べました。大盛りで食べられるか心配だったけど、ここにきてアメリカで初めて一人前の料理を完食しました。



シルビアの会社



サルバドール・ダリ発見

食事後、ダリ美術館に行きました。中学生の時に美術で習ったダリの作品を見ることができました。美術館にはダリが小さい頃に描いた可愛らしくてもどこか奇妙な作品や、何日かかったのだろうと思うくらい大きくて壮大な作品の数々が展示されていました。どの作品も不思議な世界観を持っていて見ている人を夢中にさせる物ばかり。改めてダリの素晴らしさを感じました。

家に帰り、「HIGH SCHOOL MUSICAL 2」の続きを見ました。アメリカに来てたくさん映画を観ましたがまだ慣れません。英語は日本語と違って勝手に頭に入ってこないのが、物語の内容を分かろうとするだけでとても疲れました。

その日セント・ピーターズバーグ市の国際交流委員会主催の歓迎会がサンケンガーデンズで開かれました。そして来る前、日本で母に教えてもらいながら必死に練習した浴衣の着付けをするのがきました。何度も練習したかいがあり、スムーズに着ることができ、シルビアに見せると美しいと言って大喜びしてくれました。歓迎会場に行くと、今年セント・ピーターズバーグ市から高松市へ親善研修生として来ていたカタリーナとジェシカに再び会うことができました。また、喋るオウムミンディとの触れ合いの場面では自分の腕に鳥を乗せるという人生初めての体験をしました。研修生3人で着て行った浴衣は多くの人に喜ばれました。途中松本さんが空手着に着替え、みんなの前で空手の型を披露してくれました。市長さんや副市長さんとサンケンガーデンズの庭園を見て回りました。そこには高松市から贈られたという日本庭園があり、市長さんと私達研修生3人で写真を撮りました。他にもフラミンゴや植物を見たりとても楽しい時間を過ごしました。

家に帰った時にはすでに疲れていましたが、シルビアが私の大好きなディズニー映画を観ようと言ってくれたので喜んで「アトランティス」という映画を観て寝ることにしました。



サンケンガーデンズにて



ミンディとのふれあい

## 7月28日(火)

今日もいつものサンドイッチを食べながらアメリカのニュース番組を見ていました。いつもは喋るのが早すぎると思いながら何気なく目に映像を映すという単純作業でしたが、今日は気が付くと英語が早いと感じることはなく聞き取るという作業を無意識に行っていました。そんな自分に少し驚きながらも、嬉しくなりました。

午前中は日本の伝統的な作品が展示しているMFA（ミュージアムオブファインアーツ）美術館に行きました。富士山や武士の散切り頭、芸妓の絵などあまり見たことがない作品が殆どで、シルビアにこれは何？と聞かれても多分こうだと思うとか、分からないとかの曖昧な答え方しかできませんでした。自分の国のものなのに十分に説明することができず、悔しくて恥ずかしい思いになりました。もっと日本の歴史に興味を持ち、知識を深めていこうと思いました。その後、昨日行ったサンケンガーデンズにあるイタリアンの店に行き、Northeast Exchange Clubというボランティア市民団体の方に3回目のプレゼンテーションをしました。自分の前にいる人がこれまでより多かったので今まで以上に緊張しましたが、3回目となると慣れもあったのか落ち着いてプレゼンテーションをすることができました。シル



ビーチにてノエルと私



みんなで作った泥団子と砂のお城

ビアは仕事に行かなければならなかったもので、午後からは橋君と橋君のホストファミリーと一緒に海に行きました。砂浜で橋君のホストマザーのジュールズとホストシスターのノエルと一緒に大きなお城を作りました。私が小さい頃によく作っていた泥団子を作ると二人共とても喜んでくれたので、私も嬉しくなり、作り方を伝授し一緒にたくさんの泥団子を作りました。昼食は橋君のホストブラザーのスカイラーの勧めでホットドッグにチリソースがかかったチリドックというものを食べました。チリドックは想像以上に美味しかったです。

5時頃まで全力で遊んだので、シルビアとの待ち合わせのピザ屋に着いた頃にはお腹がぺこぺこ。私はアメリカでもう何度も食べたであろうハンバーガーを注文しました。みんなで今日のことをシルビアに話し大盛り上がりし、中々解散できませんでした。

家に帰り、「101匹わんちゃん」を観てまたも大盛り上がり。美術館では悔しい思いもしたけど午後からはいっぱい笑えて、とても楽しい1日になりました。

## 7月29日(水)

家族や友達のお土産を買いに朝からタンバ空港に行きました。1つのお店でクッキーやキーホルダーなどたくさんのもを買い300ドル以上使ったのでシルビアも店員さんもとても驚いた表情でした。一方私は何十人もの人にお土産を買わなければならなかったもので、ここで大量に買うことができ一安心しました。

休む暇なく、次は大きなショッピングモールに連れて行ってもらい、7月に誕生日を迎えた母と姉のためにネックレスを買い、私も同じ店にあったピンクの可愛いポーチを買いました。お金を出し間違えてしまい少し焦りましたが、店員さんがもう一度ゆっくり金額を言ってくれたのですぐに正しい金額をだすことができました。しかし最初よりは成長したと思っていたリスニング力も



チャーリーと日本料理店にて



コンサートへ!

まだまだ甘いものだと痛感しました。夕食は以前日本料理を食べに行ったSOUZOUでシルビアの友人のチャーリーとスーザンも一緒にお寿司を食べました。私は3人に箸の使い方や、チャーリーが大好きだという枝豆の食べ方を教えました。3人とも慣れない箸で、ぎこちなく食べ物を掴んでいてとても面白かったです。アメリカでの最後の夜である今夜は、4人でジャズバンドのコンサートに行きました。客席はすでにたくさんの人で埋まっていた有名な女優さんや映画監督さんも来ていました。予定時間を少しすぎた8時過ぎから始まり約2時間後に終わりました。ボーカル

の女の人は透き通った綺麗な声で、一つ一つの曲を丁寧に歌い上げていてどの曲も聞き入ってしまうものばかり。今日の一日の疲れが癒され、心地の良いサウンドの余韻を感じながら眠りにつきました。

## 7月30日(木)

目覚ましがり時計をみると3時半。長いようで短かったセント・ピーターズバーグでの生活がいよいよ終わってしまいます。空を見上げると、『The sun shines here! 太陽ここにあり』がキャッチコピーのこの市にはふさわしくないほど毎日雨が降り続いた日々を思い出しました。タンパベイを見ると、初めてこの市に来て不安ばかりだった数日前の自分を思い出しました。今は不安が無くなり、この地を離れるという寂しい気持ちが大きくなっていました。空港についてから出発までの時間は意外に短くて、悲しんでいる暇もないほどあっという間でした。別れ際まで、私を笑わせてくれたシルビアに昨日の夜に書いた手紙を渡すと一瞬驚いた顔をしていましたが、すぐにありがとうと言って少し涙目になりながら受け取ってくれました。一緒に遊んだ橋君のホストシスターのノエルやインディゴは、ハグしに来てくれてもっともっと遊んであげたかったなと思いました。私達はまだここにいたいという気持ちに耐え、もう一度ここに帰ってくることを心に決め、それぞれのホストファミリーとセント・ピーターズバーグ市役所職員の方に見送られ、たくさんの素敵な思い出を作ったこの市を飛び立ちました。



お別れ…タンパ空港にて



## 感想文



香川県立高松桜井高等学校 2年

苛原 奈央

### 宝物の10日間

今回の研修は、私にとって様々なことを積極的に取り組むきっかけになりました。

元々英語が得意というわけではなく、英語が好きだからという理由でこの事業に参加した私は、最初は正直期待より不安のほうが大きかったです。実際にアメリカに行ってから、自分の言いたいことが半分も言葉にならなかつたり、聞かれていることがよく分からなかつたりして謝ることが何度もありました。改めて自分の英語能力の低さを痛感し落ち込みましたが、それと同時にもっともっと英語を勉強してネイティブの人にも通じるように話そうとこれまでよりも強く思うようになりました。

日本のことについて聞かれた時に知らないことがたくさんあり、十分に答えることができませんでした。分からないという恥ずかしさや答えられないという悔しさを身に染みて感じ、自分の国についてももっと知識を深めなければならないと思いました。

またセント・ピーターズバーグ市でたくさんの人と出会い色々な人と話すうちに、最初のころに感じていた不安はいつの間にかなくなっていました。それは現地のみなさんの優しく明るい人柄が大きく影響していると思います。英語が未熟な私でも分かるように、何度も言葉を言い換えて話してくれたり、それでも理解ができなかった時には笑顔で「大丈夫！問題ないよ」と声をかけてくれました。現地でのどんな体験よりもこのような人達に出会えたことが、私の一番の思い出であり宝物です。

セント・ピーターズバーグ市は至る所にユニークなアートがあり、太陽の光が反射しきらきらと輝く海がどこまでも続いていて、知らない人同士でも挨拶が交わされる、自然豊かなとても素敵な所でした。10日間という短い間でしたが現地の人とも仲良くなれて、この市が大好きになりました。これからは私の第二の故郷とも感じたセント・ピーターズバーグ市と高松市の関係を繋いでいく役割を果たしたいです。

このような所でたくさんのことを学び、一生忘れることのできない最高の思い出を作ることができてとても嬉しく思っています。この研修に携わってくださった皆様本当にありがとうございました。またこの旅を無事に終えることができたのは、共に助け合えた仲間がいたからです。松本さん、橘君本当にありがとう。

# 親善研修生 報告書 Ⅱ



## 日誌・活動記録

香川県立高松西高等学校2年 橘 知隆

### 7月20日(月)

今日はいよいよ出発の日だ。17時過ぎに高松空港に着いた。たくさんの人に見送られて高松空港を立った。初めてのLCCで成田空港へ。LCCはとても狭いと聞いていたが、そこまで狭くなかった。うどんシックにならないか心配だ。成田空港に向かっている途中機内から、遠くの空で雷がピカピカしていたのが見えた。成田空港に着くとまず、空腹を満たすために夕食を取った。そして前泊する為空港近くのホテルへ。ホテルの

周りには何もなくて、暗かったがきれいなホテルだったのでテンションが上がった。まず明日の打ち合わせをして、ホテル内のコンビニでおやつを買った。夜は私と苛原さん、松本さんの3人で夜遅くまでテレビを見て、カードゲームのUNOをした。意外と盛り上がったので2時頃就寝。



研修生3人と家族

### 7月21日(火)

今日は前日の打ち合わせ通り、6時半に起きた。とても眠かったが、ホテルの朝食がとてもおいしかったので目が覚めた。今日はいよいよ日本を発つのかと思うとワクワクが止まらない。今回の研修の3人共通の目標は苛原さんが考えた「舞い上がることなく、節度を持って」である。とても目標通りに行くとは思えない程気持ちが高揚していた。出国審査を終えると、



ついにタンパに到着

そこは日本だが日本ではないような不思議な感覚に陥った。ついに3人でセント・ピーターズバーグ市に行くのかと思うと楽しみで仕方がない。飛行機に乗るまでは3人でUNOやトランプを楽しんだ。ついに飛行機に乗って経由地であるシカゴ空港へ。昼食は機内食だった。今頃、友達は何をしているのだろうと何度か考えた。何事もなくシカゴへ着いたが、タンパ空港行きの飛行機に乗るまで時間がありとても暇だったので、アメリカで有名なドーナツのお店でドーナツを買ったり、空港内を見て回った。アメリカン航空に乗ってタンパ空港へ。機内は寒くて凍えそうだった。タンパ空港内で少し迷ってしまったが、ホストファミリーが待っている場所へ何とか行くことができた。3人が来るのをとても楽しみにしてくれていたようで笑顔で迎えてくれた。集合写真を撮った後はそれぞれのホストファミリーとの行動となった。ホストマザーのジュールズさんはアーティストで絵画を描いている。ホストブラザーのスカイラー、ホストシスターのノエル、インディゴは元気いっぱいだ。ジュー



ルズさんに、夕食はアメリカっぽいものがないと言うと海のお店へ連れて行ってしてくれた。そこではハンバーガーを食べた。ミディアムサイズだったが、意外と大きかったので食べるのに時間がかかった。夜の街はとてもきれいで、日本とは全然違った景色だった。派手な色の建物が多く、背の高い木がたくさん植わっている。私が想像していたフロリダの景色がそこにはあった。走っている車も全然違う。とにかく大きい車が多い。ナンバープレートが日本とは違い、様々な種類がある。ハーバーにはたくさんの真っ白な船があった。

家に着くと、スカイラーが重たいスーツケースを2階の玄関まで運んでくれた。重いから大丈夫だよと言ったが、僕がやると言って、運んでくれた。なんて優しいのだろう。これから楽しい日々が過ごせるのだと思うとドキドキとワクワクが止まらない。時差ボケでガタガタになった体をしっかりと休ませて明日に備えよう。



ホストマザーのジュールズさん



ナンバープレートにオレンジ

## 7月22日(水)

今日の朝は大型スーパーマーケットへ行った。お店自体がとても大きく、カートも大きかった。何もかもが大きくて、驚きの連発であった。そこでは食べ物でもおもちゃでもなんでも売ってある。家族へのお土産としてアメリカっぽい物を買った。のどが渴いていたのでジュースを買ったが、とても甘かった。アメリカの物は何でも極端なイメージがあったが全くその通りであった。中間の物があまりないなと感じた。



冷たいプール

午後からはホストファミリーとプールに行った。行くとすでに苛原さんがいた。学校の授業で水泳を選択していないのでこの夏初めてのプールだった。とても暑かったので、すごく気持ちよかったが、プールが途中から足が届かないくらいの深さになっていたので溺れかけた。スカイラーやインディゴ、ノエルとたくさん話すことができたので良い時間を過ごすことができた。気づくと体が真っ赤になっていた。日焼け止めを

塗っていなかったのがんがり焼けた。とても痛い。さすがサンシャインシティだ。太陽が眩しかった。インディゴは顔が真っ赤になってとても痛そうだった。肌が白いのでよく焼けたのが分かる。その後はダウンタウンにあるThe Birchwood Innという天蓋のついた席などがある開放的な屋外レストランに行って街を見下ろした。やはりセント・ピーターズバーグは素晴らしいところだ。海が輝いていて、きれいな建物ばかりだ。日本とは全く違って、白い建物が多く太陽の光を反射して輝いていた。美しい景色を堪能することができた。高級そうな車がたくさん走っている。リタイア層が多いと聞いていたので、納得だ。

次にセント・ピーターズバーグ市議員の一人であるニュートンさんの弟さんに会った。8月に選挙があるそうで、ちょっとしたパーティーが開かれていた。ここで初めての名刺交換。日本から来たと言うと驚いていたが歓迎してくれた。家に向かう車中でホストマザーのジュールズさんに英語を話すのは難しいねと言うと、そんなことないよ、とても上手だよと言われたのでとてもうれしかった。今日はプールで泳ぎすぎたので早く寝よう。



パーティーで

## 7月23日(木)



市役所前で

今日はとても大切な日である。なぜならCM撮影、市長表敬と市議会で高松市についてのプレゼンテーションを研修生3人で発表するからだ。10時にセント・ピーターズバーグ市役所に集合だったが、着くと10分くらい遅れていた。セント・ピーターズバーグに来る前に割と時間にルーズだと聞いていたが、本当にその通りだと思った。遅れて怒られないかドキドキしていたが、誰も時間は気にしていないようだった。アメリカには日本のように5分前集合のような習慣がないのだろうかと思った。最初に3人でお揃いのTシャツを着てCM撮影をした。今までの研修生は市役所内で撮影していたので今回も同じなのかと思ったら、外での撮影だった。アートの街を感じることでできる絵が描かれた壁の前や、たくさんのお店が立ち並ぶ場所での撮影だった。私はセント・ピーターズバーグ市の天気のこと、苛原さんは食べ物のこと、松本さんはアートについて、最後には3人一緒に「The sun shines here! 太陽はここにあり」というセリフを言った。青空の下での撮影はとても楽しかった。

次は市長表敬。市長さんと副市長さんにお会いした。市長さんとはセント・ピーターズバーグ市の好きな所について話をした。高松から持ってきたプレゼントを渡し説明をするととても喜んで下さったようで、前の研修生が持参したお土産を見せてくれた。市長さんはずっとニコニコしていたので特に緊張することなくお話することができた。市長さんから缶バッチがついた袋等たくさんのプレゼントを頂いた。どれもとてもかわいくて最高にハッピーな気持ちになった。最後に市議会研修生のみんで高松市についてのプレゼンテーションを英語でした。私は盆栽について、苛原さんは女木島と男木島について、松本さんは和三盆とかがり手まりについてのプレゼンテーションをした。事前研修で時間を掛けて準備した。私の通う高校は盆栽で有名は鬼無町にある。毎日の学校に行く際に盆栽を見ているので盆栽を紹介したいと思ってい



元気いっぱい3人と一緒に

た。実際に盆栽園へ訪問して話を聞き、盆栽にはたくさんの種類があり海外でとても人気があることが分かった。鬼無の盆栽は松を中心として生産していて、松盆栽の種類や、何故この地での栽培が適しているのかについて説明した。私は2番目だったので苛原さんのプレゼンテーションをドキドキしながら聞いていた。ついに自分の番だと思った時にはすでに足が震えていた。プレゼンテーションをしている間はずっと足が震えていた。緊張しすぎである。プレゼンテーションの資料が一部上手く映し出されなかったのが困惑したが、3人とも無事に終わったのでジュールズさんや苛原さんのホストマザーのシルビアさん、セント・ピーターズバーグ市職員のインディアさんが褒めてくれた。

その後はショッピングに行って、夜はミュージックバーに行った。クルクルとミラーボールが回り、おじさんたちがステージで歌っている。UNCLE JOHN'S BANDというバンドらしい。観客もノリノリだ。しかし、音楽が大音量で流れているので耳がおかしくなるかと思った。ジュールズさんが耳にティッシュを詰めていたので真似した。ジュールズ一家はここによく来るそうだ。私はここでジュールズさんの友達と話すのを楽しんだ。英語で話すのは楽しいと何度も感じた。家に帰ると日付が変わる直前だったのでベッドに入ると一瞬で寝てしまった。

## 7月24日(金)

今日の朝食はアメリカの朝らしくシリアルやパンだった。日本からお土産として持ってきていた抹茶のお菓子も一緒に食べた。みんな抹茶が好きなので、おいしいと言っていた。すこしばかりしたが、ベーコンにチョコレートがコーティングされたベーコンチョコレートを勧められた。みんなはおいしそうに食べていたが、私の口には合わなかった。さすがアメリカ、自由な発想である。午前中はセント・ピーターズバーグ市役所職員のデイビットさんとインディアさんと研修生3人でモレアンアーツセンターに行った。そこはアートの複合施設で陶芸やガラス作品を展示していたり、体験教室も併設している。たくさんの陶芸作品が展示されていて、素晴らしい空間だった。行ったときは、たくさんの子供達が自分達の思い思いの作品を作っていた。昼食はアメリカでとてもポピュラーな料理のマカロニアンドチーズとチリソースがかかったポテトを食べた。とてもおいしかったがチリソースがかなり辛かった。食べていると雨が降り始めて雷が鳴り始めた。サンシャインシティのはずなの



歴史博物館のサイン入りボール

に。『サンシャインシティ!』と叫ぶと、インディアさんが大爆笑していた。インディアさんは本当によく笑う。次に行ったのはセント・ピーターズバーグ歴史博物館。エントランスには大きな飛行機が天井に吊るされて展示されていた。また本物のミイラがあったので怖くてまともに見ることができなかったが、面白いものもたくさんあった。たくさん展示してあったので3人でひとつひとつ楽しんだ。今夜はトロピカーナフィールドでタンパベイ・レイズの野球観戦だったがそれまで時間があったのでホストファミリーとミュージアムオブファインアーツ、通称MFAに行った。インドの踊るシバ神、モネやルノアールといった有名画家の作品が常設されていたり、現代らしいアートがたくさん並んでいた。そこでは、ちょうど日本の浮世絵などが展示されていた。浮世絵についてジュールズさんと話した。お土産も魅力的なものばかり

りでたくさん買ってしまいました。お店で少し休憩して、ジュールズ一家がよく飲むというお茶のティーバッグを買った。セント・ピーターズバーグはオレンジが有名らしいのでオレンジの物を買った。そこで、カップに入ったシリアルを発見した。シリアルをよく食べるだけあって、日本では見たことのない種類のものもあった。会計の際に30ドルを13ドルと聞き違いをしてしまった。数字の聞き分けは意外に難しい。店員さんに謝ると大丈夫だよと言って待ってくれた。リスニング力を磨かなければと思った。



初めてのメジャーリーグ観戦

大量に購入したお土産を置きに家に戻り、少し休憩してタンパベイ・レイズの野球観戦の為にトロピカーナフィールドへ。試合は19時過ぎから始まる予定だったが、みんなのんびりしていたので、会場に着くとすでに始まっていた。もうすでにレイズは相手チームに点を入れられていた。しかし、レイズがヒットを打って流れが一気に変わった。そこからどんどん追い上げ、2得点し、勝利した。観戦中はみんなでピーナッツを食べた。観客はみなレイズのTシャツを着て、ベルを持っていた。電光掲示板に「Make some noise 音を出して」と表示されるとそのベルを鳴らしたり、叫んだりとにかく盛り上がっていた。レイズがとても好きなのだろうと思った。しかし、観客席はゴミだらけで、ピーナッツの殻が大量に落ちていた。日本の「来た時よりも美しく」のような考え方は見受けられなかったように思う。試合後はレイズのグッズを買いに行った。ぬいぐるみやバッジなど高松に帰ったら、みんなに自慢できる品々だ。アメリカを全身で感じることでできた1日だったと思う。明日は雨が降らないといいな。

7月25日(土)



ソウガメと触れ合うインディゴとノエル

ばにある橋は、船が近づくとカンカンという踏切で聞くような警報音とともに遮断機が下りて橋の一部が跳ね上がる。とても面白かった。ビーチ散策後はジョンズパスのショッピングモールの中のワニやエイと触れ合える場所へ行った。小さいものから大きいものまでたくさんのワニやエイがいた。カメレオンっぽいのもいてみんな、大はしゃぎだった。なかなか見る機会のない動物と触れ合えたので

今日はまず、ジョンズパスというビーチへ行っ  
た。雨が降っていたので傘をさしてビチョビチョに  
なりながらビーチを散策した。スカイラーやイン  
ディゴ、ノエルは裸足で走り回っていて楽しそう  
だった。ペリカンや真っ白な鳥たちが釣りをしてい  
る人達のバケツの中にある魚を狙っていた。ビーチ  
のすぐそ



ジョンズパスのショッピングモールにて



ダリ美術館の前で

がけ、運動をしっかりすることが必要だと思った。昼食の後はダリ美術館。今回の研修で最も楽しみにしていた場所のひとつである。建物自体が芸術作品であった。ガラスの窓がモコモコと飛び出している。きれいな建物だったので、つい見とれてしまった。建物内にはらせん階段があって、頭上はガラス張りになっている。上から光が差し込んでいて素晴らしい空間だった。建物も素晴らしかったが、作品はそれ以上に素晴らしかった。絵を鑑賞しているときに警備員の方にリュックサックは後ろではなく、前で持ってくださいと注意された。警備員の方曰く、ダリの絵に見とれてしまってリュックサックを盗まれることがあるという。美術館内はスカイラーといっしょに回った。スカイラーが案内や解説をしてくれた。あの有名な時計が溶けている絵も見ることができた。ダリの絵は色々な手法を用いていたので近づいてみたり、離れてみたりと私達をととても楽しませてくれた。お土産も魅力的な物ばかりだったので、ついたくさん買ってしまった。夜はみんなが楽しみにしていた地元サッカーチーム、タンパベイ・ローディーズの試合観戦に行った。地元の人達が、たくさんの応援グッズを持って応援に来ていた。セント・ピーターズバーグの人達は本当にスポーツが好きだなと思った。私はローディーズのチームカラーである緑色のビーズでできたネックレスを身に着けた。試合開始直前になると、サポーターが太鼓を叩いたり、大声で叫んだりして応援を始めた。試合はのんびり観られるものだと思っていたが、ここから椅子に座ることなく1時間半位立ちっぱなしで応援した。スカイラーはローディーズの旗を振っていた。サポーターの一人であるブライアンは髭を生やしたおもしろいおじさんで、手の叩き方や動きなどの応援の仕方を教えてくれた。何度もハイタッチをした。みんな応援歌を歌っていたので、セント・ピーターズバーグに来る前に覚えておけば良かったと思った。試合観戦中はリズムに合わせて適当に歌ったり叫んだりした。左右に動いて応援したりと、思っていたよりも大変だった。サッカーをスタジアムで観戦するのは初めてだったのでとても興奮したが、地元の人達の盛り上がり方はそれ以上だった。相手チームに先制されてしまったが、後半、ボールを上手く繋いで得点し



素敵な髭を生やしたダリ鳥



タンパベイ・ローディーズの試合観戦

良かったと思う。そこには鯉もいてノエルが餌やりを楽しんでいた。昼食はアメリカらしくホットドッグ。子供用のメニューで頼んだのにポテトが大量に付いてきた。他のものを頼んでも、もれなくポテトが大量に付いてくる。アメリカ人で肥満の人が多い傾向にあるのは、炭水化物ばかりの食事を取っているからであろうか。どこの店でもこのような感じなのでアメリカで長期滞在する場合には日本にいるときよりもバランスのとれた食事を心がけ、運動をしっかりすることが必要だと思った。昼食の後はダリ美術館。今回の研修で最も楽しみにしていた場所のひとつである。建物自体が芸術作品であった。ガラスの窓がモコモコと飛び出している。きれいな建物だったので、つい見とれてしまった。建物内にはらせん階段があって、頭上はガラス張りになっている。上から光が差し込んでいて素晴らしい空間だった。建物も素晴らしかったが、作品はそれ以上に素晴らしかった。絵を鑑賞しているときに警備員の方にリュックサックは後ろではなく、前で持ってくださいと注意された。警備員の方曰く、ダリの絵に見とれてしまってリュックサックを盗まれることがあるという。美術館内はスカイラーといっしょに回った。スカイラーが案内や解説をしてくれた。あの有名な時計が溶けている絵も見ることができた。ダリの絵は色々な手法を用いていたので近づいてみたり、離れてみたりと私達をととても楽しませてくれた。お土産も魅力的な物ばかりだったので、ついたくさん買ってしまった。夜はみんなが楽しみにしていた地元サッカーチーム、タンパベイ・ローディーズの試合観戦に行った。地元の人達が、たくさんの応援グッズを持って応援に来ていた。セント・ピーターズバーグの人達は本当にスポーツが好きだなと思った。私はローディーズのチームカラーである緑色のビーズでできたネックレスを身に着けた。試合開始直前になると、サポーターが太鼓を叩いたり、大声で叫んだりして応援を始めた。試合はのんびり観られるものだと思っていたが、ここから椅子に座ることなく1時間半位立ちっぱなしで応援した。スカイラーはローディーズの旗を振っていた。サポーターの一人であるブライアンは髭を生やしたおもしろいおじさんで、手の叩き方や動きなどの応援の仕方を教えてくれた。何度もハイタッチをした。みんな応援歌を歌っていたので、セント・ピーターズバーグに来る前に覚えておけば良かったと思った。試合観戦中はリズムに合わせて適当に歌ったり叫んだりした。左右に動いて応援したりと、思っていたよりも大変だった。サッカーをスタジアムで観戦するのは初めてだったのでとても興奮したが、地元の人達の盛り上がり方はそれ以上だった。相手チームに先制されてしまったが、後半、ボールを上手く繋いで得点し

た。そこで盛り上がりはピークに達し、ブライアンとハイタッチ。その後はもっと大きな声で応援したが、またもや相手チームに入れられて結局負けてしまった。負けてしまったのは残念だったが、とてもいい時間を共有することができた。試合後は選手達と一緒に写真を撮り、サインをもらった。スタジアム内のお店では売れ残ったホットドッグとチーズバーガーを無料で配っていたので、貰って帰宅。ベッドで横になると一瞬で寝てしまった。

**7月26日(日)**

今日は早いものでもう滞在6日目だ。楽しい時間は本当にすぐに過ぎてしまう。朝起きると9時過ぎだったが、ジュールズ家はみんなのんびりと起きるので家を出たのは11時前位だった。車でタンパへ。大音量の音楽でみんなノリノリだ。目的地はタンパの動物園。中に入ってみると、ここは動物園なのだろうかと思うような光景が私を待っていた。まるで動物園と遊園地が合体したよ



タンパ動物園



楽しそうなスカイラー

うな場所だった。最初に、みんなで色々なポーズをして記念撮影をした。後から動物たちを合成してくれるそうだ。入場料は約2000円位だったが、乗り物は無料で乗り放題だった。スカイラー、インディゴと一緒にウォータースプラッシュみたいなものに乗った。斜面を落ちていくときには本当に死んでしまうのではないかと初めて体験する感覚に襲われ、そのすぐ後に水を被ってビチャビチャになった。幸い、この日は太陽がサンサンと照りつけていたので服はすぐに乾いた。もちろんたくさんの動物達も見た。フロリダで有名なマナティも見た。レタスをモシャモシャ食べている可愛い姿が印象に残っている。ラッコがココナッツらし

きものを追いかけていた。意外と泳ぐのが速かった。インディゴとノエルはリスザルの柵の前からなかなか離れなかった。2人とも可愛い物には目が無いようだ。ジュールズさんはゴリラのものまねをしていた。ジュールズさんはよくものまねをする。動物園の中にはヘビやカエルばかりが展示されている建物があり、とても長いヘビや体の色が毒々しいカエルを見ることができた。キリンやシマウマを見ているときに雨が降ってきた。どしゃ降りだったのでみんなび



レタスを食べるマナティ

しょ濡れになってしまった。キリンやシマウマ達は大きな屋根の下に避難していた。セント・ピーターズバーグに来てから晴天だったのは最初の2日間位だ。しかし雨が降っていても湿度があまり無い為、高松市よりは過ごしやすい気がする。この日は夕方まで動物園で時間を過ごした。楽しい時間を過ごすことができたが、ずっと歩いていたのでとても疲れた。明日はどんな一日になるのだろう。



7月27日(月)

今日の朝はセント・ピーターズバーグ市の商工会議所でのプレゼンテーションだった。突然決まった予定だったのでとてもバタバタした。制服を着て商工会議所へ。最近建てられたのか、とてもきれいな建物だった。受付で小さなボトル入りの日焼け止めをもらった。さすがサンシャインシティだ。何人かと名刺交換をして話した。プレゼンテーションでは3人で高松のいいところをしっかりとアピールできたと思う。市議会で発表した時と同様に興味津々で聞いて下さった。笑ったり、驚いたりと反応が大きく、手応えを感じた。お土産を頂き、写真撮影して終了。プレゼンテーションをするのも慣れてきた気がする。明日が最後のプレゼンテーションの予定だ。一人でも多くの方に高松市を知ってもらえるいい機会だと思う。次に苛原さんのホストマザーのシルビアさんの職場に行った。保険代理店を営んでいるようだ。ここで働いている社員の人の息子さんがタンパベイ・レイズのマスコットキャラクターの着ぐるみの仕事をしているようだ。日曜日にタンパベイ・レイズが試合に勝った時に走っていたあのマスコットキャラクターの中にはこの人の息子さんが入っていたのかと思うと少しおもしろかった。次はチフリーコレクションを見に行った。なんてきれいなガラスなのだろうと何度も思った。部屋は鮮やかな色で埋め尽くされていた。

真っ赤や真っ青なオブジェ、色とりどりの玉、壁一面に敷き詰められたガラスの花。どれもガラスの可能性を感じさせる物ばかりだった。ガラス彫刻家のチフリーは度重なる事故で左目が盲目になったり、肩を痛めた為にガラスの吹きのパイプが持てない為、現在は他の人が細工をしており、チフリーはガラス作品のプ



色とりどりのガラス玉

ロデュースをしている。お土産にガラスのペーパーウェイトを買った。1日はまだ終わらない。次は楽しみにしていたサンケンガーデンズへ。セント・ピーターズバーグ市の国際交流委員会の主催で我々研修生の歓迎会を開いて下さった。サンケンガーデンズはジュールズ家からはとても近いのですぐに着いた。まず浴衣に着替えて日本文化をアピール。みんなが素敵だねと言ってくれた。浴衣がとても珍しかったのか、いっしょに写真を撮ってと何度も言われた。そして現地連絡員のプランタムラさんに会った。プランタムラさんのご主人も来ていた。日本刀や古美術の収集家だという。気さくな



オウムのミンディーと

方で話していてとても楽しかった。ゆっくり話して下さったのでスムーズに会話することができた。途中でセント・ピーターズバーグ市長さん、副市長さんが登場。今年度高松市へ親善研修生として来ていたカタリーナとジェシカの家族も来てくれた。そして毎年研修生が会っているオウムのミンディーとの触れ合い。僕と松本さんが腕に乗せた時は「ハロー！ベイビー」と言っていただけだったが、苛原さんが腕に乗せると突然大爆笑し始めた。とても面白かったので笑いが止まらなかった。サンケンガーデンズは日本風の庭園があり、竹で作られた鳥居があつたり、鯉が泳いでいたり日本を感じることができ

た。あまり時間が無かったのでバタバタしたが、最後に研修生3人で記念写真を撮ることもできた。次はセント・ピーターズバーグの美しい夕焼けを見に行くことに。ドンセザールと言う5つ星のホテルのすぐ近くのビーチで夕焼けを見る予定だったが、まさかの大雨。車から降りてホテルの中に入るまでにびしょ濡れになってしまった。夕焼けは諦めて夕食のんびりと取ることに。5つ星ホテルというだけあって、ホテル内はとてもきれいだった。ドンセザールは外観がピンク色のホテルでまるでお城のようだった。日本とは違ってアメリカでは派手な色の建物があっても違和感がないと感じた。また建物内のショーケースにはサンドアートもあった。お店でお土産を買った時、店員さんに日本から来たと言うととても歓迎してくれた。セント・ピーターズバーグに来てから、みんなが私のことを歓迎してくれる。あと残り3日だと言うと、「フロリダを楽しんでね」と言ってくれた。夕食はメニューを見てもどんな食べ物か分からないので、スカイラーが勧めてくれたハンバーガーを食べた。とてもおいしかった。しかし、5つ星ホテルということもあって食事も駐車料金も値段が高かった。ジュールズさんはクレイジーと言いながら笑っていた。家に帰ると24時前だったのですぐに寝てしまった。



5つ星ホテルのドンセザール

## 7月28日(火)

今日もプレゼンテーションがあった。Northeast Exchange Clubと言うボランティア市民団体での発表だった。サンケンガーデンズの中にあるイタリアンレストランで行った。これが最後かと思うと、悲しいような気持ちもするし、安堵感もある。私は昨日から風邪気味だったので声が少し変だったが、みんな無事に終えることができた。みなさん頷きながら聞いて下さった。あまり時間がなかったので質疑応答の時間はなく、すぐにお店を後にした。苛原さんのホストマザーのシルビアさんが仕事で来られなかったので、その後は苛原さんと一緒にビーチに行った。晴れていて気持ちいいなあ



青空の下ビーチで満喫

思っていたら突然の雨。またかと思った。しかしすぐに晴れたので一安心。昨日の雨で海が少し荒れていたのに、体験する予定だったパドルボードはできなかった。パドルボードはサーフボードの上に立ったまま乗り、オールで漕いでいくスポーツで、体験したことが無かったので残念だった。フロリダの海にはオオメジロザメが出るとテレビで見たことがあったので少し心配だったがサメに襲われることもなくフロリダの海を満喫することが

できた。フロリダの海は瀬戸内海と違って、島が一つもなく、水平線がずっと続いていた。そして、砂浜が真っ白でとても眩しい。サングラスがないと目が開けられない。スカイラーはずっと海に飛び込んでいたので、私も一緒に飛び込んだ。インディゴとノエルとジュールズさんは砂の城を作っていた。苛原さんが泥だんごを作ると、みんな興味津々で夢中になって作った。そして出来上がった砂の城の横に並べて写真を撮った。フロリダの海で遊べる私はとても幸せだなと思った。昼食はスカ

イラーお勧めのホットドッグを食べ、そして夕食にはビーチの近くにあったレストランでピザを食べた。アメリカならではの食事を堪能しているなどと思った。苛原さんのホストマザーのシルビアさんも合流してみんなで大きなピザを食べた。2切れだけでお腹一杯になる程大きかった。セント・ピーターズバーグに来てから、アメリカンサイズには段々と慣れてきたような気がする。家に帰ると、ジュールズさんは以前、大阪に住んでいたことがあるそうで、私に写真を見せてくれた。奈良や京都にも行ったことがあるそうだ。日本が大好きなジュールズさんは英語で書かれた日本のガイドブックを持っていて、リビングルームには今まで受入してきた研修生からのうちわや招き猫などのお土産が置かれた棚もある。そこで私は日本のコインをプレゼントにあげた。とても喜んでくれたが、お札にも興味があったようだったので今のレートを考えて、交換することになった。ちょうど日本札を全種類持っていたので、交換することができた。新品の100ドル札や50ドル札、そしてあまり出回っていない2ドル札を手に入れた。記念コインも貰ってしまった。目が不自由な人でも使えるように表面加工されている日本のお札の事を教えると感心していた。とても喜んでくれたので良かったなど思った。ついに明日は最終日。しっかりと寝て、最終日を楽しもう。

## 7月29日(水)



街で見つけたオブジェ

今日は最終日なので、買い物が主になった。まずは地元のスーパーマーケットに行った。私のホストファミリーみんながお土産探しを手伝ってくれた。たくさんの種類のクッキーがあったが、せっかくアメリカに来たのでアメリカっぽい甘そうなものを買った。どこのお店に行ってもお菓子の種類はとても豊富だ。優柔不断な私はお土産選びに時間がかかってしまった。日本よりも冷凍食品や缶詰の種類が多かったように思う。チーズバーガーですら冷凍食品で売られていた。あまり自炊をしないのかなと思った。

その後もいくつかのお店でお土産を買った。次に連れて行ってくれたのは郵便局だ。長い歴史があるらしく、建物内には小さな博物館があった。この周辺で最初にできた郵便局らしい。日本の郵便局よりも小さい印象を受けたが、建物は石造りで、黒と白色で統一されたシンプルな内装だった。ジュールズさんが記念に切手を買ってくれた。どれも素晴らしいデザインでとても気に入った。郵便局の外にある駐車場に「12minites Parking」と書かれてあった。何故12分なのだろうと不思議に思った。昼食はジュールズさんの親友が経営しているお店で食べた。カフェとギャラリーが組み合わさったお店で、チフリーコレクションのガラスの作品やたくさんの絵が飾られていて、とても良い雰囲気だった。私がいいなと思った作品はフグの形の焼き物で、フグの針がマッチで表現されていた。火を点けるとすぐに燃えてしまうだろう。とても可愛かった。セント・ピーターズバーグはアートの街なので、歩いていると至る所でオブジェを見ることができた。昼食の途中でスカイラーとインディゴがケンカしていたが、話すスピードがあまりにも速かったのでどのような理由でケンカしているのか全く理解できなかったが、見ている方としては少しおもしろかった。次はモレアンアーツセンターだ。今回は陶芸作品を見学したが、今回はガラスの作品を制作しているのを見学することができた。熱く、ドロドロのガラスを棒に巻きつけて常にくるくる回している。膨らましたり、冷えて固まらないよう

に真っ赤な窯の中に入れたりと暑いのに大変そうだ。最終的に赤色の気泡の入ったツボが出来上がり、観客は大きく拍手した。最後に制作していた職人の方2人と記念撮影した。その後1978年にアメリカ合衆国国家歴史登録財に登録されたザ・ヴィノイルネッサンスと言う歴史のあるホテルに行った。昔から著名人が宿泊しているホテルとして有名だが、お化けが出ることでも有名らしい。タンパベイ・レイズの試合でメジャーリーグ選手や関係



ガラス職人さんと

者が宿泊した際に目撃されたという。またこのホテルの創設者はゴルフが好きだったそうだ。このホテルのライバルはビーチが近くにあるドンセザールで、いつも競い合っていたらしい。どちらのホテルが良いかジュールズさんに聞いてみたが、どちらも同じ位だという。昨年の研修生がこの近くにある大きな木の上に登って写真を撮っていたのを思い出したので、連れて行ってもらった。スカイラーは怖いものなしで、ヒョイヒョイと木の上を移動していたが、私には無理だった。街を歩いている



チャーリーさんと

と、前フロリダ州知事のチャーリー・クリストさんにお会いした。みんなで写真を撮ってお別れした。ジュールズさんも初めて会ったのでその後もずっと興奮していた。今日、どれだけの店を訪れたかも分からなくなってきたが、次はロシアの物がたくさん売られているVladimir's Collectionsというお店に行った。ロシアの古いコインやハンカチを買った。この店のご主人は、日本で開かれた石の芸術作品コンテストで何度も表彰されている凄い方でたくさんの表彰状が飾られていた。ジュールズさんはアーティストなのでとても顔が広い。ここのご主人とも知り合いらしい。夕食は何を食べるのかと聞くと、なんでも回転するレストランで食べるという。行ってみると、ホテルの最上階にあるレストランの床の一部がゆっくりと回っていた。みんな、はしゃいでとても楽しんでいた。ジュールズさんは1回しか来たことがなく、とても特別な場所だそうだ。来た時は外はまだ明るかったが、だんだんと暗くなってきて夜景がきれいだった。食べたのはスパゲッティだが、上にハンバーグがのっていて、ボリューム満点だった。食べきれず残ったのは持ち帰りになった。お腹いっぱいになると、夜のビーチへ。真っ暗なのにそこではまさかの鬼ごっこ。全力疾走した。今日は10日間で最も運動した日だったと思うし、たくさんの場所を訪れることのできた素晴らしい一日だったと思う。とても充実していた。帰宅途中に、地元で最も支持されている新聞タンパベイ・タイムズを購入した。こっちに来て、手に入れたかった物の1つだったので嬉しかった。明日帰らなければいけないのかと思うと悲しいが、将来ここに必ず戻ってくると約束した。家に帰ると、スーツケースにたくさんの思い出を詰めて、すぐに寝た。



回るレストラン

**7月30日(木)**

今日の朝はスカイラーが起こしてくれた。昨日は荷物を詰めるのに時間が掛かってしまったのでとても眠い。睡眠時間3時間程のぼんやりした状態で車に乗り込む。朝食はスカイラーがジャムを塗ってくれたパンだ。まだ暗い道を走ってタンパ空港へ。預ける荷物が重量オーバーだったので詰め直す。何とか超過料金を払わなくて済みそうだ。将来必ずここに戻って来ると約束した。そして日本に来たら案内するので是非来てねと言ってお別れした。ホストファミリーみんなが最後まで手を振って見送ってくれた。感謝の気持ちを上手く表すことができず悔しいが、感謝の気持ちでいっぱいだ。空の上から少し明るくなったセント・ピーターズバーグの景色を楽しんだ。あっという間に経由地であるシカゴ空港に到着した。一睡もしていない。今のところ順調に事が進んでいるなど思っていたが、



空港での見送り

空港で財布がないことに気付く。きっとスーツケースの荷物の詰め直しの際にいっしょに入れてしまったのだろうと思った。もし、パスポートをスーツケースの中に入れてしまっていたらと思うとぞっとする。危うく日本に帰れないところだった。行きと違って、帰りは早く過ぎたような気がする。財布もスーツケースの中から出てきたので一安心だ。みんな無事に帰ってくることができた。セント・ピーターズバーグ市での研修経験はとても充実していて毎日楽しくあっという間に過ぎていった。元気いっぱいのホストファミリーと過ごせたホームステイ体験は忘れられない最高の思い出になった。本当にありがとう。

## 感想文



香川県立高松西高等学校 2年  
橋 知隆

### 雨時々晴れの10日間

初めに、私にこのような素晴らしい機会を与えてくださり、ありがとうございました。私は、セント・ピーターズバーグ市でホームステイすることで、自分の視野が大きく広がったと感じています。また、中学生の頃から抱いていた海外でホームステイをする夢が叶ったと同時に、留学したいという思いがより一層強くなりました。

出発するまでは、英語だけで10日間も生活できるのかという不安が大きかったのですが、セント・ピーターズバーグ市の人々はとても明るく、私のことを心から歓迎してくださいました。しかし、英語での会話の際は、辞書で幾度となく単語を調べて、使ったことのない単語を使うという繰り返しでした。自分が伝えたい事が十分に伝わらず、相手の言葉の意味を理解することができないこともあり、悔しい思いを何度もしました。いかに自分の英語力が乏しいのかを思い知らされました。私は、特に英語を「聞く力」が弱かったと感じています。そのため、聞いて理解することに諦めかけたこともありましたが、何度も聞き直して理解するという積極的な行動が大切だと感じました。また、日本のことを聞かれても詳しく説明することができないことが多々ありました。とても恥ずかしい気持ちになりました。日本人として、幅広い知識を持っておくべきだと痛感しました。

私はこの研修を通して、英語がグローバル化の進む現代社会ではとても重要なコミュニケーションツールであることを身をもって感じることができました。また、アメリカの文化や習慣を体験することで、アメリカの良さを知るだけでなく、日本という国が世界に誇れる素晴らしい文化や習慣をもっていることも改めて確認することができました。

「異文化理解」というと、一見難しそうなイメージをもってしまいがちですが、自分が今まで知らなかったことを知ることで、新たな価値観を生み出し、新しい考え方ができるようになることこそが、「異文化理解」への第一歩だと思います。私は、今回の研修で「異文化理解」への第一歩が踏み出せたと思います。

これからも、高松市とセント・ピーターズバーグ市の友好が続いていくように、私ができることで協力していきたいと考えています。

今回の研修に関わって頂いた全ての方に感謝しています。本当にありがとうございました。





# 親善研修生 報告書 Ⅲ



## 日誌・活動記録

高松市立高松第一高等学校2年 松本 萌花

### 7月20日(月)

朝、7時前に目が覚めた。いつもなら、まだ寝ている時間だ。昨晚からのワクワクとドキドキでこんなにはやく目覚めたのだろう。今日は、17時30分に高松空港集合だった。私は、それまでに部活に行き、その後高校野球の応援をしに行ったりとしなければならないことがたくさんあった。応援の際にすっかり日焼け止めを塗るのを忘れた私は、アメリカに行く前に真っ赤に日焼けしてしまった。



待ちに待った出発の日

いよいよ成田空港へ。出発の時間が近づいてきた。出発式で私達はこれから始まる楽しい経験にワクワクしていたが、高松市の高校生の代表として常に自覚を持たなければならないと思ったことから「舞い上がることなく節度を持って行動すること」を宣言し、家族とお別れをした後、飛行機に乗り込んだ。飛行機内では隣の席の苛原さんと1時間半話続けた。出発前から何度も事前研修で会って仲良くなっていたので、この3人なら、これから10日間どんなハプニングがあっても乗り越えていけると思う。前泊する為、成田空港近くのホテルにつくと、研修生みんなでカードゲームのUNOをした。ハイテンションで何回も繰り返し、気付いた頃には深夜1時をまわっていた。もうそろそろ寝ようと思う。おやすみなさい。

### 7月21日(火)

昨夜寝るのが遅くなってしまったので、朝起きられるか心配だったが、目覚まし時計で無事起きることができた。朝食に、バイキングで暫く食べられないであろう日本食を食べ、荷物をまとめてホテルを出た。バスで成田空港へ行き、少し時間があったので、3人で空港内を散策した。出発の時間が近づくと、高松市国際交流協会のスタッフの方と別れ、チェックインをし



機内で大盛り上がり

た。周りを見渡すと、外国人の方もたくさんいて、いよいよ海外に行くのだと改めて気持ちが高ぶった。ゲートが開かれ、ついに飛行機に乗った。これから約10時間の長いフライトが始まると思うと、とてもワクワクした。飛行機内では各自のシートに備え付けのテレビがついており、映画・ドラマ・ゲームなどを楽しむことができた。私は、まず「チャーリーとチョコレート工場」という映画を観た。英語を耳に慣れさせるために英語版で見た。何度か観たことがあるので、たいいてい内容は理解できた。帰りの飛行機では、初めて観る映画でも今よりも理解できたらいいなと思う。

経由地であるシカゴ空港に到着すると、まわりは外国人でいっぱいだった。もうここでは私達が外国人である。最終目的地であるタンパ空港への飛行機に乗ると、あまりの寒さに鳥肌がたった。ここで、アメリカ人と日本人の気温感覚の違いを知った。また、客室乗務員のサービスは淡々とこなしている印象を受け、日本のサービス精神をもった接客ではなく、日本人のおもてなしの心は素晴らしいと思った。

いよいよタンパ空港に到着し、会いたくて仕方なかったホストファミリーとの対面だ。出発前から連絡を取っていたので不安よりも楽しみのほうが何百倍も大きかった。タンパ空港は、広くて少し迷ったがスタッフの方に聞いてホストファミリーとの待ち合わせ場所に辿り着いた。私達のホストファミリーは「Welcome to St.Petersburg」と書かれた横断幕をもって、笑顔で待ち構えてくれていた。私のホストファミリーは、日本人のお母さんのチカさん、アメリカ人のお父さんのジョーズさん、チカさんのお母さんのようこさん、長女のマヤ、次女のミカの5人家族だった。マヤは、昨年度のセント・ピーターズバーグ市からの親善研修生で高松市に滞在していた時に、私の通う高校に研修に来ていて既に面識があったので会ってすぐ話題に困ることなく盛り上がった。また、その後、空港からマヤが運転する車で帰った。マヤは、私と同年代だがとても大人に思えた。家に着くと持って行った急須や富士山柄の手拭い、縮緬細工のキーホルダーに甚平などのお土産を渡した。みんなとても喜んでくれてよかった。長いフライトの後で、疲れるだろうと思っていたがそんなことはなく、夜まで楽しく家族で話して、マヤとミカと同じ部屋で寝た。

## 7月22日(水)



サマーキャンプの様子

朝は、少し遅めの起床。朝ごはんはシリアルを食べ、ミカとサマーキャンプに行った。このキャンプは、託児所のようなもので夏休みの間開かれているらしい。そこには、幅広い年齢の子供達が集まっており、ミカはジュニアリーダーとしてみんなのお世話をするボランティアをしていた。私もおやつを配ったり、小さな子供達の話し相手になったりした。この旅の目的のひとつであるボランティアに携われて嬉しく思う。

私は、このキャンプでフィオーナという女の子と仲良くなった。フィオーナは本が大好きで、読んでいる本のことを聞いたりしているうちに少しずつ心を開いてくれて、今度はフィオーナから「bookは日本語でなんというの？」などと質問してくれるようになった。日本に興味を持ってくれたようで嬉しかった。その後、みんなでお絵かきをした時、フィオーナが絵をプレゼントしてくれた。真ん中に桜の木のようなピンク色の大きな木が描いてあってとてもかわいかった。他にも、ドッジボールやバレーボールをしたり、映画を観たりした。本当に内容の濃いキャンプだった。このキャンプには年齢の異なる子供達がたくさん集まっていて、学校よりその繋がりが濃いように思えた。また遊ぶだけでなく、



フィオーナとツーショット

先生の話聞く時は子供達同士で示し合わせて静かにするなどけじめもついていた。このようなサマーキャンプに参加することで年齢の違う人との関わり方やルールについて学ぶのかなと思った。キャンプが終わるとアルバイト帰りのマヤが迎えに来てくれた。それから、3人でスーパーマーケットに行き、お土産を買った。その後、量り売りのアイスを食べた。アメリカの食べ物は、とにかく量が多かった。また、シェイクのSサイズをオーダーした時、日本のLサイズくらいのもが出てきて驚いた。家に帰ると、ホームシアターでの映画鑑賞が始まった。ミュージカル調の映画で面白かった。



アイスクリーム屋さんで

## 7月23日(木)



大好きなワッフル

朝食は、ワッフル、スクランブルエッグ、ソーセージだった。このソーセージは、日本のものとは、少し違って、パリッとした食感はなかったが、味が濃くて美味しかった。朝食を食べ終え、準備をした後、ミュージアムオブファインアーツへ向かった。ちょうど日本の浮世絵展が開催されていた。遠く離れたアメリカで多くの日本作品が高い評価を得ていることを知り、嬉しくなった。日本だけでなく、世界中から作品が集められており感動した。マヤは、美術館を回る順番もすべて私に決めさせてくれて、細やかな気遣いができるマヤをととても尊敬し、私もそのようになりたいと思った。そ

の後、アベニューというハンバーガーショップへ行った。そこでは、今年度のセント・ピーターズバーグ市からの親善研修生のカタリーナと彼女のお母さんと妹が私達を待っていた。カタリーナもマヤと同様に高松市に滞在している時に私の通う高校の同じクラスで研修していたので、また会えて嬉しかった。アベニューは、西部開拓時代をイメージさせる開放的な雰囲気、いかにもアメリカという雰囲気でもとても素敵なレストランだった。ハンバーガーはもちろんアメリカンサイズで大きく、食べ応えがあった。ここで、マヤがカタリーナのお母さんに「萌花は何に対してもすごく積極的なのがとてもいい」と言ってくれて嬉しかった。

その後、市長表敬の為、セント・ピーターズバーグ市役所へ行った。日本での市役所は堅いイメージがあるが、セント・ピーターズバーグ市役所の雰囲気はとても明るい印象を受けた。私達に気づいた職員の方が「セント・ピーターズバーグへようこそ！」と歓迎してくれた。市長はとても明るい方でセント・ピーターズバーグのどこを気に入ったか、高松からのお土産は何なのかなど、とても積極的に聞いてくれた。高松市長と高松市国際交流協会から預かったお土産を渡し、簡単に説明もした。市長



カタリーナとの再会



はすごく喜んでくれたようで熱心に私達の説明を聞いてくれた。市長から「セント・ピーターズバーグ市のどこが気に入ったか」と聞かれ「アートの街であること」と答えた。瀬戸内国際芸術祭が来年開催される事を説明した。市長表敬が終わると、次は市議会に行き、研修生のみinnで高松市についての英語のプレゼンテーションをした。私は特産品である和三盆と、伝統工芸品の讃岐かがり手まりについて説明をした。事前研修では実際に菓子木型工房を見学し、和三盆の型抜き体験もした。また讃岐かがり手まりの工房では制作過程や歴史等を学ぶことができた。これらの資料を元にプレゼンテーションを一生懸命作った。発表の際には持参したかがり手まりを見せたり、和三盆をプレゼントした。頑張った甲斐あってプレゼンテーション中は市議会議員の方達が熱心に聞いてくれて嬉しかった。

今日の公式行事が終わり、ひと段落つくと、チカさんとミカがスターバックスコーヒーに連れて行ってくれた。ここでコットンキャンディフラペチーノを飲んだ。とても甘くて、きっと日本では味わえないと思った。夕食は、ピザだった。家族で、映画を観ながら食べた。今日は、朝も昼も夜もアメリカらしい食事を存分に味わえた。

## 7月24日(金)

朝食を食べ、その後マヤと近くのカフェに行った。マヤが注文したアイスコーヒーには大量の砂糖が底に溜まっていた。あのコーヒーにいったい何杯の砂糖が入れられていたのだろうか。

今日はセント・ピーターズバーグ市役所のデイビットさん、インディアさんと一緒に市内観光へ。セント・ピーターズバーグ歴史博物館とモレアンアーツセンターで陶芸教室、アートショップの見学をした。アートショップではあらゆるジャンルの芸術作品が売られていた。一番印象に残っているのは操り人形のブースだ。今にも動き出しそうで少し怖かった。



レトロな飛行機

歴史博物館には、古代エジプトのミイラ、たくさんの有名人のサイン入り野球ボール、大きな大きな自転車など色々なものが展示されていた。中でも、一番私の目を引いたのは、飛行機のコーナーだ。何故なら私は小さい頃から客室乗務員になるのが夢で飛行機も大好きだからだ。そんな私にとってこのコーナーはとても興味深かった。そこには、映画「風立ちぬ」で航空技術者になりたい主人公の少年の夢にでてきたような古い飛行機の復元

模型があった。今の飛行機と少し違って、ここから現在の飛行機になるまでにどんな試行錯誤がなされてきたのだろうと思った。また、同じ展示室には、世界各国の航空会社の年表もあった。そこには、日本航空（JAL）の名前もあった。日本の航空会社が名を連ねているのを見て誇りに思った。陶芸教室では、様々な作品を見た。小さな子供の作品から、プロ並みの作品まで一同に並べてあって、とても面白かった。ここにもサマーキャンプの子供達がたくさん陶芸体験に来ていて楽しそうだった。日本にもこんなカリキュラムが



エアライン年表

あればいいのと思った。市内観光が終わると、チカさんとミカがダウンタウンに連れて行ってくれた。そこで、とてもアメリカで一般的なお菓子だというTaffy chewsを買った。日本ではなかなか見られない原色のキャラメルのような食感のお菓子だ。

その後、楽しみにしていたタンパベイ・レイズの野球観戦に行った。レイズのキャップ、Tシャツを身に着け、カウベルを持って、応援した。途中から橘君のホストファミリーも合流して、みんなで盛り上がった。平日にも関わらず、球場には多くのレイズファンが集まっていた。前列には男子高校生のグループがいてお揃いのハットを被っていた。マヤはそれを見て「釣りに来た人みたい」と笑っていた。4回表で相手チームに1点が入



レイズグッズを身に着け応援へ

り、流れを持っていかれそうになったが、8回裏、ベッカム選手が決めてくれた。スリーランホームランだった。この1打でレイズは逆転勝利し、会場は大盛り上がり。面白い試合だった。試合観戦



球場をバックに

が終わり家に帰ると、マヤとミカの3人でダンスパーティー。一緒に楽しく音楽に合わせて踊った。踊り疲れると次はカラオケパーティーにチェンジ。マヤもミカもディズニー映画が大好きで、「アナと雪の女王」や「塔の上のラプンツェル」の劇中歌と一緒に歌った。日本語バージョンだけでなく、英語のも前に聞いていたので良かった。また歌い疲れると「リトルマーメイド」や「美女と野獣」などの日本語版劇中歌と一緒に聞いた。英語

バージョンとはリズムが違うらしく「違和感がある」と言っていた。音楽学校に通うマヤだからこそ感じたことだったのであろう。今日は朝から晩までびっしりスケジュールが詰まっていて、とても楽しい一日だった。

## 7月25日(土)

朝目覚めると、お昼前だった。横ではミカがまだ寝ていた。昨日のダンスパーティーで疲れてしまったからだろう。急いでリビングに行くと、ホストファーザーのジョーズさんがクレープを作ってくれた。具は卵とじゃがいもとソーセージとレアチーズがそれぞれ入ったものだった。

朝食を食べ終わると、マヤがショッピングモールに連れて行ってってくれた。日本のショッピングモールと違うところは、建物内にアイススケートリンクや大きなトランポリンがあることだ。遊び心があったといいなと思った。その後、派手な色のグミやチューングガムなどのアメリカンなお菓子がたくさん置いてある、日本でいう駄菓子屋のようなお店に行った。カラフルで派手な色のお菓子がたくさん置いてあり、見るだけでワクワクした。施設内のイベント会場では、ファッションショーをしていた。きれいなモデル達がランウェイの上でポーズを決めていた。お腹がすいたので、ソーセージをブレツェル生地で巻いたものとマカロニチーズ、そしてピザッキーを食べた。ピザッキーは、アメリカでとても人気なデザートだそうで、大きなチョコチップクッキーにバニラアイスが乗っていた。下



ピザッキー

の生地がピザのように見えることから、ピザ+クッキー=ピザッキーとなったそうだ。

その後、楽しみにしていた地元チームタンパベイ・ローディーズのサッカー観戦に行った。今日は、苛原さんと橘君のホストファミリーと一緒に観ることができた。橘君のホストブラザーのスカイラーが顔にローディーズのシールを貼り、チームカラーのタオルを首にかけ、旗を振り回して応援していてとてもかわいかった。最初スカイラーはあまり心を開いてくれていなかったが、今では一緒に写真を撮るときも自然な笑顔が出るようになって嬉しかった。スタ

ジアムには熱いローディーズサポーターがたくさんいた。その中の一人のブライアンというおじさんがたくさん話しかけてくれた。試合中はサポーターたちとずっと歌い続けて、とても楽しかった。ゲームの後半途中、相手チームに1点を加えられ1-2で勝ち越されると、多くの人が試合を最後まで見ずに帰ってしまった。結局試合は1-3でローディーズは負けてしまったが、応援がとても楽しかったので気にならなかった。ゲームが終わると、多くの人達が1番前の席に集まっていた。すると、試合を終えた選手たちが出てきて、サインと写真撮影をしてくれた。スタジアムを出ると、スタジアムで



陽気なおじさん ブライアンと

売れ残ったハンバーガーとホットドッグを無料で配布していた。余ったものを捨てずに配ってしまうのはいい考えだと思った。同時に「mottainai もったいない」の精神は世界共通なのかもしれないと思った。

家に帰ると、マヤとミカが「The cup songs」を披露してくれた。これは、プラスチックコップと机と手でリズムをとりながら歌う、というもので一見難しそうに見えたが、教えてもらおうと意外と簡単にマスターできた。今日も色々な事を経験できた充実した日だった。



スカイラーとツーショット

## 7月26日(日)

朝は、チカさんの「晴れた！」という元気な声で目が覚めた。昨日、「天気良かったら、明日はカヤックに行こう」と言われていたので、嬉しくてすぐに飛び起きた。朝食を買い、車の中で食べながら目的地に向かった。こちらに来て、こんな快晴は初めてだ。やっとセント・ピーターズバーグのキャッチコピーである「The sun shines here 太陽ここにあり」を実感できた。車の中では、チカさんと色々なことを話した。アメリカの学校制度は高松と大きく違う。例えば、高校生は朝7時に学校が始まり14時には帰宅するそうだ。その後、アルバイトに行ったり、趣味に打ち込んだり、ボランティアをしたりするという。楽しそうでいいなと思った。もし私がアメリカの高校生だったら放課後

は友達と寄り道しながら帰ったり、何かボランティア活動に参加したいなと思う。1時間半後、ついに川に到着し、カヤックを借りに行った。私はミカとカヤックに乗り、チカさんが一人で乗ることになった。川の長さは5マイル、8キロだ。おかげで、場所によって様々な景色の変化を楽しむことができた。上流では、水が湧き出ているので水がとてもきれいで川底が見える位透き通っていた。中流も上流と同じく水はきれいだったが、上流に比べて変わったことと言えば生息動物が増えた、ということだろう。親子の亀やタヌキ、そして野生のマナティも見ることができた。また、中流では流れが穏やかになってきたので、カヤックから降りて泳いだ。水がとても



生まれて初めてのカヤック

冷たくて楽しかった。中流から下流にかけて、別荘のような大きな家がたくさん見られるようになってきた。まだまだ先の話だが、老後はこんなところに住んでゆったり過ごすのもいいなと思った。下



のんびりした時間

流の方に行くと、水が赤く濁ってきた。この辺まで来ると、腕に疲れを感じ、日焼けで肌がジリジリと痛んだ。楽しくて、夢中になっていたのが気が付かなかったが、どうやら4時間位漕いでいたらしい。ここにきて、部活の弓道で鍛えた剛腕が役に立った。家に帰ると、ジョーズさんが夕食にブリトーを作ってくれた。ブリトーは、肉や野菜を薄いクレープのようなパン、トルティーヤに包んで食べる料理だ。とても美味しかったのだが、あまりに量が多すぎて半分くらいしか食べられなかった。

その後、ジョーズさんおすすめの映画を3本観た。その中でも一番気に入ったのは「ヘアスプレー」だ。コメディで面白い一方で人種差別などの人権問題にも触れていてためになる映画だった。そして、「ウエストサイドストーリー」を観ながら、ジョーズさんの趣味であるスケッチと一緒にした。自分、マヤ、ミカの絵と、映画に出てきた女優の絵を描いたのだが、ジョーズさんのスケッチは、とても素敵だった。また、絵を描いていた私の絵を描いてサイン入りで、鉛筆と消しゴムと一緒にプレゼントしてくれた。その後、YouTubeに投稿されたジョーズさんの動画を観た。何年前に自分で小さな潜水艦を作ったらしく、その制作過程や実験などがとられていた。大人になっても少年の様な心を忘れず、好きなことに一生懸命になれるジョーズさんはとても素敵だと思った。



ジョーズさんお手製のブリトー



映画女優をスケッチ

7月27日(月)

今日は、朝からセント・ピーターズバーグ市の商工会議所でプレゼンテーションをした。商工会議所の雰囲気は市議会に比べアットホームな感じだった。笑顔で聞いてくれたので、私もリラックスして発表することができた。プレゼンテーションが終わると、和三盆は普段から食べるのか等の質問を



ダンスレクチャー

してくれたり、たくさん話し掛けてくれて会話が弾んだ。その後、苛原さんのホストファミリーのシルビアさんの経営する会社に連れて行ってもらった。至る所に洗練された絵画が飾られていたり、社員の方達が楽しそうに仕事していたりするのを見て、魅力的な職場だなと思った。その後、ミカと一緒にまたサマーキャンプに行った。今日は子供達にお昼ご飯を配る手伝いをしたり、アメリカで人気のダンスを一緒に踊ったり、ハリーポッターの映画を大きなスクリーンで観たりした。前回のキャンプで一緒に遊んだ子の中には、私を覚えてくれている子もいて「Hi, Moka!!」と手を振ってくれて嬉しかった。今日は、ジェイラという女の子とたくさん話した。ジェイラは、小学校高学年位の女の子で何事にも興味津々だった。私があげたドラえもんのお土産がとても気に入ったようだったので、ストーリーを教えてあげた。仲良くなりたいと思っていたので、本当に良かった。また、今日は日本語の書かれたTシャツを着ている男の子を見つけて嬉しくなった。サマーキャンプから帰ると、急いで家に帰り着替えてセント・ピーターズバーグ市の国際交流委員会主催の歓迎会に出席する為サンケンガーデンに向かった。着いたのは



昼食準備のお手伝い

約束の時間の2・3分後だったが、橘君とホストファミリーも同じ時間に来ていたので、日本に比べると大分時間に寛容だなと思った。サンケンガーデンズではたくさんの動植物を見ることができた。高松市から贈られた日本庭園もあった。歓迎会場に行くと、すでに多くの人が軽食を食べながら話



名物オウムのミンディーと

していた。私は急いで浴衣に着替え、話しに加わった。歓迎会で研修生が浴衣を着るのは初めてだったようで、私達3人が着替えて登場するとみんなびっくりしてたくさん話し掛けてくれた。アメリカでは浴衣より着物の方に馴染みがあるらしく「着物、かっこいい!」と言っていた。歓迎会には今年度のセント・ピーターズバーグ市からの親善研修生のカタリーナとジェシカ、そして彼女達の家族も来られていた。セント・ピーターズバーグでどんな体験をしたのか等少し話した後、みんなで喋るオウムのミンディーと触れ合った。よく喋り、よく笑うオウムで面白かった。その後、インディアさんに空手を見せてほしいと頼まれ、道着に着替えた。私は空手を

9年間していたが、4か月振りだったので少し緊張した。形を披露した後、たくさんの人が私に話し掛けてくれた。スカイラーが「Good job, Moka!!」と駆け寄って来てくれた。スカイラーも太極拳のようなものをやっていたらしく、興味を持ってくれたようだ。

その後、昼食にメキシコ料理を食べた。こちらの人は、メキシコ料理も大好きなようで、店には行列ができていた。そこで、米料理を食べたが、やはり白米は日本の方が美味しいなと思った。アメリカの米は日本のものと比べ細長くパラパラとしていて、少しフローラルな香りがしてクセがあった。昼食後、マヤの提案でダウンタウンに行くことになった。ダウンタウンにはテ

ラスのあるお店がたくさんあり、昼から多くの人達が楽しそうにお酒を飲んでいて、海側の方のエリアでは時々野外ライブが行われるそうだ。ダウンタウンから少し歩くと地元で有名な大きな古い木があった。地元の子供達が登って遊んでいるのがとても可愛かった。その後、ザ・ヴィノイルネッサンスというホテルに行った。このホテルは第二次世界大戦中、アメリカ軍の軍事学校として使われていて、長い歴史があるそうだ。また1978年にはアメリカの国指定歴史文化財に登録され、フロリダの建物100選に選ばれていることもあり、観光客に人気らしい。ロビーにはあの有名なガラス彫刻家デイル・チフリーの作品が何点も置いてあり、豪華な感じがした。明日はチフリーの美術館に行くので楽しみだ。またセント・ピーターズバーグに来る時には、自分の貯めたお金でこのホテルに泊まりたいと思った。明日も予定がたくさんあるようだ。ハードな明日を楽しむために今日はもう寝よう。



空手を披露

## 7月28日(火)



チフリーの作品を見上げながら

朝起きてすぐ、出かける準備をした。最初の目的地はチフリー美術館。館内には、数多くの繊細で美しいガラスの作品が展示されており、日本の影響を受けたものもあった。こんなに繊細なガラスを器用に組み合わせるのは大変だろうと思った。ここにはギフトショップがあり、チフリーの作品が売られていた。しかし、私のおこづかいで買えそうなものはなく、チフリーの作品が私の家に飾られるのはまだまだ先の話になりそうだった。

次は、ダリ美術館へ向かった。ダリ美術館の外観はガラス張りでも洗練されていた。館内に入ると、多くの人がサルバドール・ダリの絵を鑑賞していた。ダリの絵はいい意味でとてもクレイジーだった。多くの人が考えないようなことを絵にできるのが、彼の魅力なのだろうと思った。印象的だったのは、ダリの描く「空」である。地上でどんなことが起こっていても、空は常に美しかった。ダリ美術館には、そんな独特な絵のほかにも風景画などの穏やかな絵も展示されていた。お昼になり、イタリアンレストランで3回目のプレゼ



ダリ美術館の前で

ンテーションをした。Northeast Exchange Clubというボランティア市民団体の方を前に発表した。今までの中で一番リラックスでき、満足のいくものとなった。

その後、マクドナルドで軽い食事をした。マヤに「日本のマクドナルドのメニューには、スマイル0円という商品がある」ということを教えると、「それはおもしろいね!」と驚いていた。



楽しかったウォータースライダー

次は、アドベンチャーアイランドに向かった。アドベンチャーアイランドとは大規模なウォーターワールドで、高松では見られない大きなウォータースライダーが10台近くあった。閉館2時間前に入ったので殆どのウォータースライダーに乗ることができた。通常は長い行列ができるらしい。他にも飛び込み台や深さ1.8Mのプールなどもあった。深いプールで波にのまれて、濡れそうになったがマヤが助けてくれた。プールで泳いだ

後、近くのブッシュガーデンズへ。ここは、遊園地と動物園が一緒になったような施設で明日も行く予定だ。ここでチーターハントというジェットコースターに乗った。最速時速60kmととにかく速く、最高のアトラクションだった。その後、ダンスエリアに行き、振りを覚えてダンスを踊ったり、

ショーを観みたりした。ショーではたくさんのダンサーと歌手が出演していた。通路近くにいたマヤがダンスと一緒に入るように勧められアドリブで踊っていた。私が知っている曲が流れていたマヤと一緒に口ずさんだ。家に帰ると、マヤがアルバムを出して、モロッコやニューヨークに行った時の写真を見せてくれた。モロッコがどんなところか今まで知らなかったが、マヤの説明を聞いて、写真を見たりしたことで興味が湧いた。なぜ



大盛りあがりのショー

モロッコに行ったのか聞くと、モロッコ人の親戚を持つ親友に誘われたからだと言っていた。改めて、アメリカは多民族社会だと感じた。マヤの話の後は、私が春休みにオーストラリアに行った時の写真を見せた。お互いに一生懸命話を聞き、たくさん説明できて良かった。明日は、ホストファミリーと過ごす最後の日。楽しい時間はあっという間だ。明日も充実した一日になったらいいなと思う。

## 7月29日(水)

時が経つのは早いもので、ついに今日ホストファミリーと過ごす最後の日を迎えてしまった。まず、昨日も行ったブッシュガーデンに向かった。今日は、マヤの親友のリンも一緒だ。移動途中の車の中やアトラクションの待ち時間でたくさん話すことができた。リンはマヤ同様音楽とディズニーが好きで、マヤが歌いだすと一緒にハーモニーを奏でていた。それを聞いているとアトラクションの待ち時間はあっという間だった。ブッシュガーデンは昨日と比べると少し混んでいたが、多くのアトラクションに乗ることができた。いくつかのアトラクションに乗ったところで突然雨が降り出したのでギフトショップに移動し、ショッピングを楽しんだ。一番のお気に入りには名前入りレザーブレスレットだ。友達の名前を彫ってもらい、大満足で店を出た。家に帰り、少し時間があつたので一旦荷物の



パッキングをした。その後、ビーチへ行って泳いだ。こちらに来て初めての海で、とてもテンションがあがった。家からビーチへ行く途中ずっと雨が降っていたのだが、ビーチに着くと雨はぴたりと止み、雲の隙間から青空も見ることができたので安心していましたが、少し前まで雨が降っていたからであろうか、波がとても高かった。「高松の波はここまで高くない」と私が言うと、ミカが「こっちもいつもはこんなに高くない。変だな」と言っていた。残念ながら、空は雲で覆われていて夕焼けは見られなかったが、みんなが「セント・ピーターズバーグは、いつも晴れているから今度来た時はきっと見られるよ。絶対に



リンとブッシュガーデンで

また遊びにきてね」と言ってくれて嬉しかった。

ビーチから帰ると、大量のおみやげをスーツケースに詰める作業が待っていた。お土産ひとつひとつを見るとその日あったことを思い出し、切ない気持ちになった。今日最後なのだと改めて感じた。明日は4時起床。まだ起きていたいけど、そろそろ寝なければならない。おやすみなさい。



荒れ気味の海

## 7月30日(木)

早朝の出発にも関わらず家族全員起きてくれて、最後の別れを惜しんだ。今までお世話になったお礼に手紙と漢字の消しゴム、そして抹茶のお菓子をプレゼントした。ミカは抹茶のお菓子が大好きでとても喜んでくれて嬉しかった。出発の時間が近づくと、ジョーズさんとうこさんにお礼を言って、タンパ空港に行く車に乗った。車の中で聞いていたラジオで「See You Again また会おうね」という曲が流れた時、マヤとミカが歌ってくれて泣きそうになった。これからこの曲を聴くたびにセント・ピーターズバーグでの10日間のことを思い出すだろう。



最後まで笑顔で

空港に着くと、既に苛原さんとホストマザーのシルビアさんは到着していた。暫くすると、橘君とホストファミリーも来て、3人揃ってチェックインした。その後、ゲートの前でみんなで話したり、写真を撮ったりした。最後にチカさん、マヤ、ミカにお礼を言った。マヤが「次来的时候は、研修生としてではなく、私達の友人として旅行においで。その時はディズニーワールドに行こう。私も近いうちに日本に行きたいなあ。一緒にディズニーランドに行けたらいいね。」と言ってくれた。私は最後、泣いてしまわないか心配だったけれど、次会う約束をしてくれたので、笑顔でお別れできた。ホストファミリーと別れると、また3人だけの旅が始まった。周りの人達に聞きながら、無事シカゴ行きの飛行機に乗ることができた。経由地のシカゴ空港でもトラブルなく乗り継ぎ出来た。機内では映画を観たりして楽しく過ごした。

7月31日(金)



久しぶりの高松

成田空港に着き、バスで羽田空港へ移動した。行き交う人がアジア系ばかりで、日本に帰ってきたのだなと改めて感じた。羽田では最初で最後の小さなハプニングが起こった。橘君のスマートフォンが壊れ、電源が入らなくなり、苛原さんと私のスマートフォンもあと数%で電源が切れてしまいそうだったのだ。しかし、もう日本まで帰ってきていたので、それほど不安はなかった。高松行きの飛行機に乗り、最後のフライトを楽しんだ。高松

に到着すると私達の家族や高松市国際交流協会のスタッフの方が帰りを待っていてくれた。久しぶりにみんなの顔を見て、ほっとした。帰りの車では、10日間の出来事を家族に話し続けた。この10日間の経験は、私にとって一生の宝物となるだろう。

## 感想文



**Though the sun didn't shine there,  
our smile shone through**

高松市立高松第一高等学校 2年

松本 萌花

セント・ピーターズバーグ市での10日間は、今まで生きてきた中で一番楽しく、たくさんを知った実り多いものとなりました。また大きなハプニングもなく安全に過ごすことができました。1つ予想外だったことを挙げるなら、題名の「Though the sun didn't shine there, our smile shone through：太陽は輝いていなかったけれど、私達の笑顔は輝いていた」にあるように、晴れの日がとても少なかったことです。セント・ピーターズバーグ市はサンシャインシティと呼ばれる程晴天の多い都市なのですが、何故か私達が滞在した10日間は異常に雨が多かったのです。しかしそんな天気とは裏腹に私達の周りはずっと明るい笑顔で溢れていました。

私は、この研修でこれから生きていく中で大切にしていきたい2つのことを学びました。

1つは、常に笑顔でいることです。セント・ピーターズバーグ市の人々はすれ違っただけでも、目が合うと笑顔で“Hi!”と言ってくれたり、みんな積極的に人と関わろうとしていて、いい習慣だと思いました。私は、笑顔は人と人の心をつなぐ最高の手段だと思います。これからも、私は“No smile, No life”をモットーに常に笑顔でいることで周りの人に元気を与え、幸せにする存在でありたいです。

2つ目は自分の意思をはっきり伝えることです。私は今まで周りの人がいいならそれでいい、と自分の意思の主張をあまりしてきませんでした。しかし、それは必ずしもいいことではないと思うようになりました。なぜなら、自分の意見を言うことで物事をよりよい方向に変えていくことができるかもしれないからです。怖がらずにアイデアをどんどん出していくことが大切だと思いました。

今回、高松市の高校生代表としてセント・ピーターズバーグ市での様々な経験やたくさんの人との関わりを通して、自分の視野を広げ、異文化を知ると共にセント・ピーターズバーグと高松のそれぞれの良さを再発見することができました。この貴重な経験を生かして、これから積極的に国際交流に携わっていきたいです。高松を訪れた外国人の通訳ボランティア、文化紹介等、私にできることは探せばたくさんあるはずです。今後はこのような活動をすることで高松市に貢献していけたらと思います。

私は今回セント・ピーターズバーグ市に行くにあたり、たくさんの方に協力頂きました。関わってくれたすべての方に感謝しています。本当にありがとうございました。

